

東大阪市下水道事業関係 発掘調査概要報告

－ 平成19年度 －

2008. 3

東大阪市教育委員会

東大阪市下水道事業関係 発掘調査概要報告

- 平成19年度 -

2008. 3

東大阪市教育委員会

例 言

1. 本書は、東大阪市教育委員会文化財課が、東大阪市建設局下水道部の委託を受け、平成18年12月～平成19年11月末日まで実施した公共下水道管きょ築造工事などに伴う埋蔵文化財調査の概要報告である。
2. 本書には千手寺山遺跡・芝ヶ丘遺跡・中垣内遺跡・みかん山古墳群・市尻遺跡・西岩田遺跡・鬼虎川遺跡・西ノ辻遺跡・山畑古墳群・神並古墳群・皿池遺跡・浄土寺谷古墳群・神並遺跡の概要を収録した。
3. 現場は才原金弘・武田雄志・成瀬光一・村上昇・松田直子、遺物整理は現場担当者がおこない、報告の分担は各章の表に記した。
4. 本書に収録した現場写真は、各担当者が撮影し、遺物はO.P.Cカメラ店に委託して実施した。
5. 土色名に数字が入っているものは、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準じている。
6. 土層断面柱状図の深さは現場地表面が0 mである。
7. 調査の実施にあたっては、東大阪市上下水道局下水道部のご協力のもと、施工業者ならびに近隣市民の方々のご協力を賜った他、現場作業および整理作業には西尾さつき・佐野耕平・西村慶子・八田美代子・阪口英治・頭師典孝・西村和浩・川田純子・片山くみ子・小畑恵子・吉岡奈央子・石割典子・朝平琴・戎井健二・吉田友哉・杉山貴子・佐野陽子・山上憲一・秋吉由美子・水沼優が従事した。これらの方々に記して感謝いたします。

目 次

第1章	平成19年度の下水道関係調査について	1
第2章	千手寺山遺跡の調査	4
第3章	芝ヶ丘遺跡の調査	6
第4章	中垣内遺跡の調査	8
第5章	みかん山古墳群の調査	10
第6章	芝ヶ丘遺跡の第15次調査	12
第7章	市尻遺跡の調査	17
第8章	千手寺山遺跡の調査	19
第9章	西岩田遺跡の調査	21
第10章	芝ヶ丘遺跡の第14次調査	23
第11章	鬼虎川遺跡の第66次調査	28
第12章	みかん山古墳群の調査	37
第13章	鬼虎川遺跡の調査	39
第14章	西ノ辻遺跡の調査	41
第15章	山畑古墳群の調査	43
第16章	神並古墳群の調査	45
第17章	神並古墳群の調査	47
第18章	皿池遺跡の調査	49
第19章	浄土寺谷古墳群の調査	51
第20章	神並遺跡の調査	53
附 編	四条町出土の遺物	55

第1章 平成19年度の下水道関係調査について

下水道管理設工事に伴う発掘調査を平成11年度より東大阪市教育委員会が実施しており、10年が経過した。下水道工事はほとんどが東地区を中心におこなわれた。

今年度の調査件数及び調査内容の概略は下記の調査一覧表に記した。調査にあたり下水道部と文化財課で協議したが、今年も工事は道幅の狭い旧集落内や道路の迂回路が確保できない場所が多く立会調査が中心になった。また、交通量の問題から夜間工事になり、調査を断念した遺跡もある。

今年度の調査では鬼虎川遺跡で布留式期の良好な遺物包含層を確認した。鬼虎川遺跡は弥生時代の遺跡として著名である。当遺跡では方形周溝墓・環濠・井戸などの遺構が見つかった。また、遺物も多種多様なものがあり、弥生時代を研究する上で貴重な資料を提供している。今回、出土した布留式土器は新たに古墳時代を考える上で貴重な資料になると思われる。

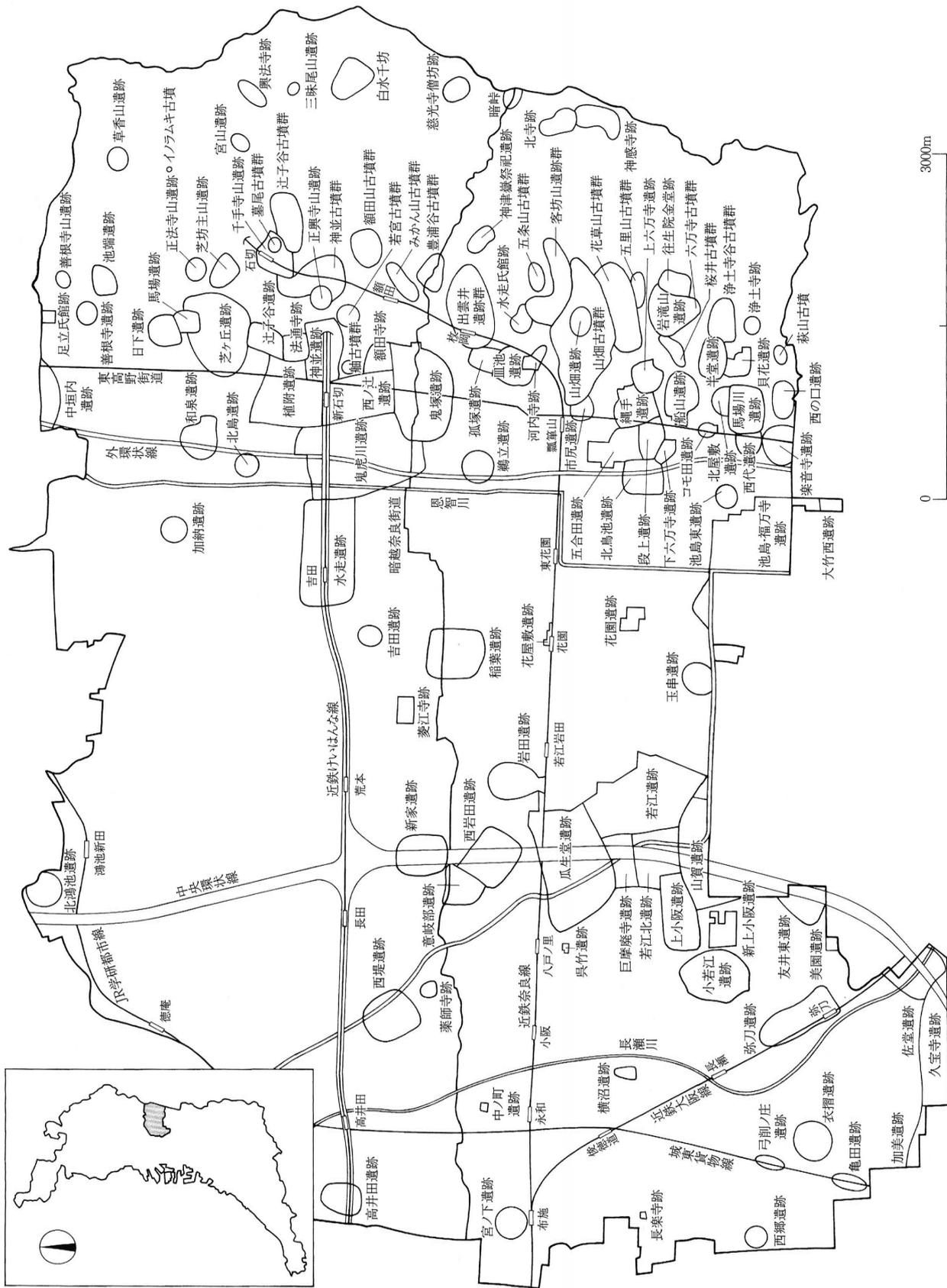
今回の収録した調査は平成18年12月1日より平成19年11月30日までに終了したものを対象とし、それ以後のものは次年度に報告することにした。

平成19年度下水道工事に伴う埋蔵文化財の調査一覧表

平成19年11月30日

届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見
1	17-226	下事84	豊浦谷古墳群・暗峠越奈良街道 平成16年度公共下水道第50工区管きよ築造工事	東豊浦町 843～1175	立会		平成18年5月1日受付。
2	18-62	下事72	千手寺山遺跡 平成17年度公共下水道第30工区管きよ築造工事	上石切町 1丁目1394～1403	立会	18.12.18 ～ 19.5.24	第2章で報告。
3	18-106	下事97	芝ヶ丘遺跡 平成17年度公共下水道第17工区管きよ築造工事	中石切町 4丁目2092-4～2099	立会	18.7.24 ～ 19.2.13	第3章で報告。
4	18-107	下事98	中垣内遺跡 平成17年度公共下水道第25工区管きよ築造工事	善根寺町 4丁目289～310-6	立会	18.11.1 ～ 19.1.25	第4章で報告。
5	18-129	下事86	みかん山古墳群 平成17年度公共下水道第205工区管きよ築造工事	東豊浦町2164	立会	19.3.15 ～ 19.3.30	第5章で報告。
6	18-131	下事106	芝ヶ丘遺跡 平成17年度公共下水道第23工区管きよ築造工事	北石切町1918～1940	立会	19.3.7 ～ 19.4.27	第6章で報告。
7	18-219	下事128	市尻遺跡 平成17年度公共下水道第107工区管きよ築造工事	四条町 587～588	立会	18.7.24 ～ 18.12.11	第7章で報告。
8	18-271	下事141	千手寺山遺跡 平成17年度公共下水道第204工区管きよ築造工事	東石切町 4丁目363～1636	立会	18.8.25 ～ 18.12.14	第8章で報告。
9	18-369	下事154	河内寺跡 平成18年度公共下水道第11工区管きよ築造工事	客坊町 697～1163	立会	19.9.1 ～	調査中。
10	18-370	下事167	西岩田遺跡 平成17年度公共下水道第203工区管きよ築造工事	西岩田 4丁目75、153、952、953	立会	18.11.21 ～ 19.12.5	第9章で報告。
11	18-371	下事169	浄土寺谷古墳群 平成18年度公共下水道第12工区管きよ築造工事	横小路町 1丁目13～27	立会	19.6.6 ～	調査中。
12	18-392	下事174	芝ヶ丘遺跡 平成17年度公共下水道第18工区管きよ築造工事	中石切町 4丁目2158～2187	立会	18.12.6 ～ 19.6.26	第10章で報告。
13	18-518	下事7	鬼虎川遺跡 平成18年度公共下水道第16工区管きよ築造工事	宝町1653	立会	19.3.15 ～ 19.6.12	第11章で報告。

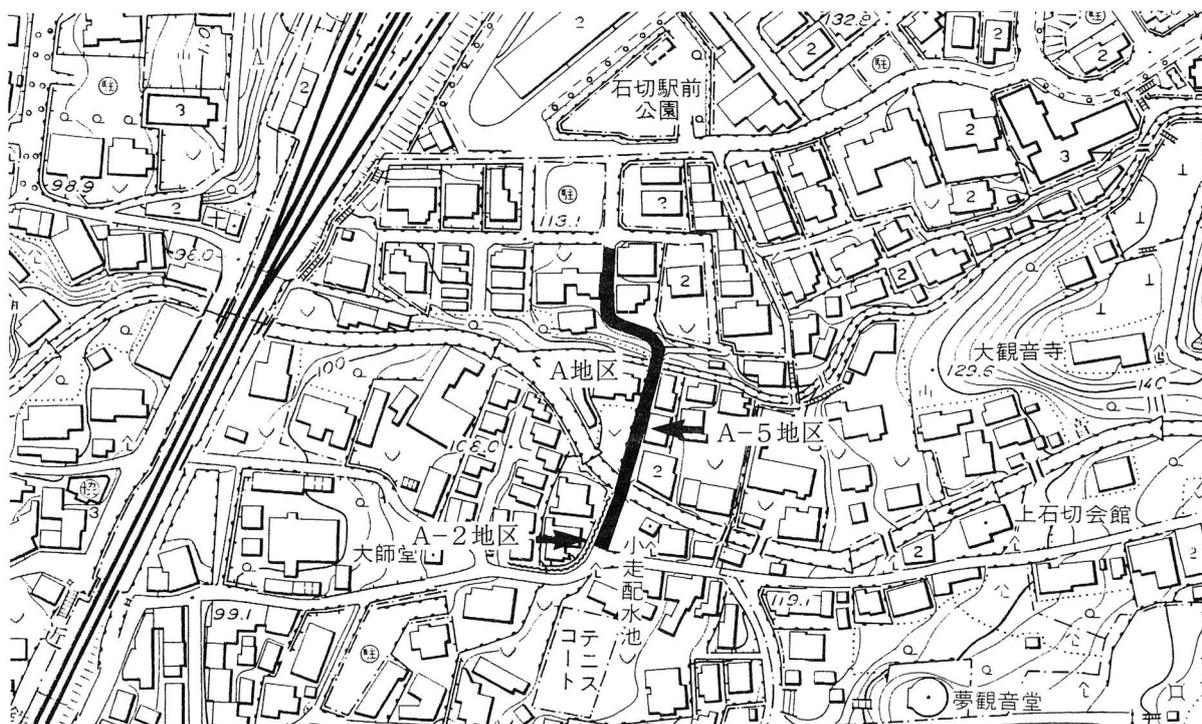
	届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見
14	18-519	下事8	貝花遺跡	平成18年度公共下水道第21工区管きよ築造工事	横小路町1丁目672	立会		近隣との調整ができなかったので工事は中止。
15	18-538	下事12	みかん山古墳群	平成18年度公共下水道第13工区管きよ築造工事	東豊浦町970-15~985-1	立会	19.9.27 ~ 19.10.23	第12章で報告。
16	18-570	下事21	鬼虎川遺跡	平成18年度公共下水道第210工区管きよ築造工事	宝町1687-4~2180-2、1692-1	立会	19.5.11 ~ 19.10.31	第13章で報告。
17	18-571	下事22	西ノ辻遺跡	平成18年度公共下水道第212工区管きよ築造工事	南莊町508-1	立会	19.7.12 ~ 19.8.16	第14章で報告。
18	18-615	下事32	桜井古墳群	平成18年度公共下水道管きよ築造工事(5-4)	六万寺町1丁目728-4~738	立会		立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。
19	18-616	下事41	西ノ辻遺跡	平成18年度公共下水道第19工区管きよ築造工事	宝町1620-3~弥生町1566-1	慎重		立会予定であったが夜間工事となったので、慎重に変更。工事実施。
20	18-617	下事42	山畑古墳群	平成18年度公共下水道管きよ築造工事(上四条町)	上四条町390~391	立会	19.5.22 ~ 19.5.31	第15章で報告。
21	19-102	下事179	山畑古墳群	平成18年度公共下水道第202工区管きよ築造工事	上四条町1546、1593-1、2016-3、4	立会	19.8.1 ~	調査中。
22	19-103	下事180	出雲井遺跡群	平成18年度公共下水道第204工区管きよ築造工事	東豊浦町885、888	立会	19.9.4 ~ 19.9.7	立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。
23	19-146	下事341	神並古墳群	平成18年度公共下水道管きよ築造工事(6-6)	東石切町3丁目1180-1~1183	立会	19.8.21 ~ 19.8.27	第16章で報告。
24	19-147	下事335	神並古墳群	平成18年度公共下水道管きよ築造工事(8-6)	東石切町3丁目1064-3~1065-1	立会	19.9.18 ~ 19.9.28	第17章で報告。
25	19-233	下事563	皿池遺跡	平成18年度公共下水道第205工区管きよ築造工事	河内町340-1~362-3	立会	19.9.10 ~ 19.10.10	第18章で報告。
26	19-312	下事612	鬼塚遺跡	平成19年度公共下水道第8工区管きよ築造工事	箱殿町456-22他	慎重		工事実施。
27	19-358	下事770	浄土寺谷古墳群	平成18年度公共下水道第21工区管きよ築造工事(2)	横小路町1丁目595-1	立会	19.10.9 ~ 19.10.24	第19章で報告。
28	19-372	下事789	縄手遺跡	平成19年度公共下水道管きよ築造工事(2-1)	南四条町779-3~779-5	立会		平成19年10月17日受付。
29	19-373	下事785	神並古墳群	平成19年度公共下水道管きよ築造工事(上石切町1丁目地区)	上石切町1丁目1219-1~1222	立会		平成19年10月17日受付。
30	19-374	下事813	山畑古墳群	平成19年度公共下水道管きよ築造工事(4-3)	上四条町1719-1、1720-2	立会		平成19年10月17日受付。
31	19-375	下事808	花草山古墳群	平成19年度公共下水道管きよ築造工事(2-2)	上四条町1336-2~1336-3	慎重		工事実施。
32	19-394	下事877	神並遺跡	平成19年度公共下水道管きよ築造工事(東石切1丁目地区)	東石切町817-2~818-1	立会	19.11.26 ~ 19.11.28	第20章で報告。
33	19-395	下事878	客坊山遺跡群	平成18年度公共下水道第20工区管きよ築造工事	客坊町1078~1083	立会	19.11.12~	調査中。
34	19-440	下事440	鬼塚遺跡	平成19年度公共下水道管きよ築造工事(2-5)	箱殿町459-8、466-6	立会		平成19年11月27日受付。
35	19-441	下事947	和泉遺跡	平成18年度公共下水道第5工区管きよ築造工事	中石切町5丁目2458	立会		平成19年11月27日受付。
36	19-442	下事948	芝ヶ丘遺跡	平成19年度公共下水道第103工区管きよ築造工事	中石切町4丁目2010-1~2027-1	立会		平成19年11月27日受付。



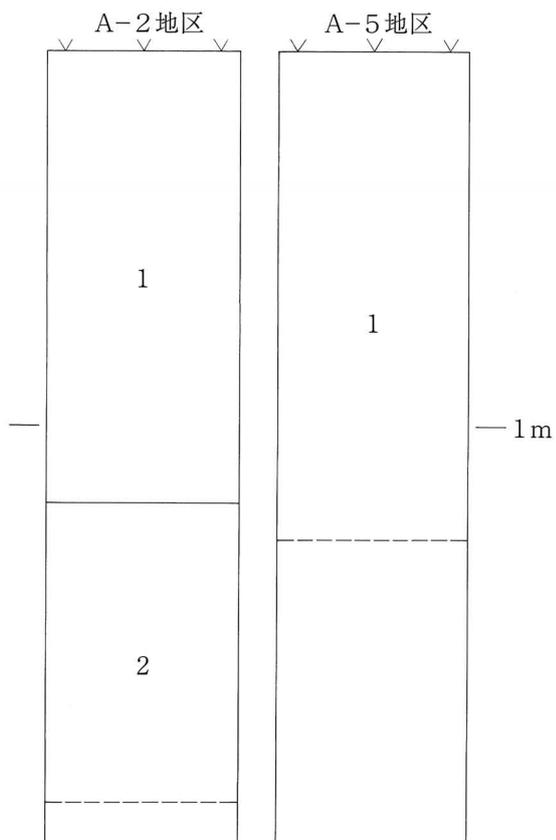
東大阪市内の遺跡分布図

せんじゅじやま 第2章 千手寺山遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成17年度公共下水道第30工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市上石切町1丁目1394～1403番地
3	調 査 面 積	75㎡
4	調 査 期 間	平成18年12月18日～19年5月24日（延べ65日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線石切駅の東である。当地点は千手寺山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ80mの間であり、開削工法と一部が推進工法である。



第1図 調査地点位置図 (1/2500)



第2図 土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-2地区の層序

第1層 盛土。

第2層 にぶい黄橙色(10YR6/3)巨礫混じり土。

A-5地区の層序

第1層 盛土。

2. まとめ

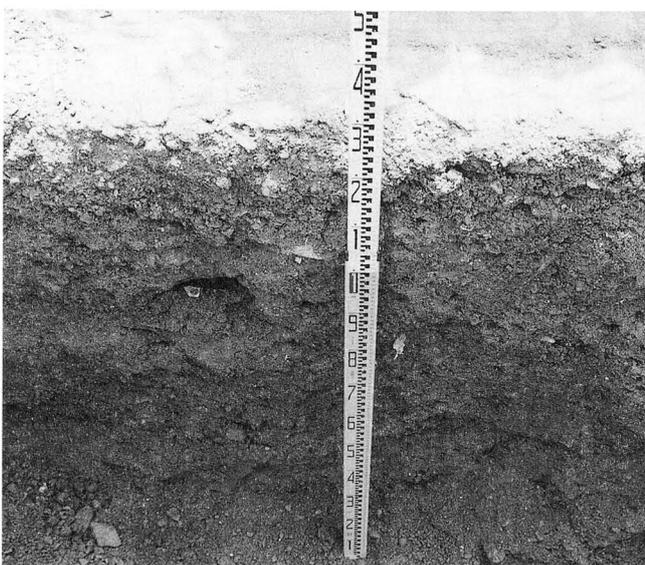
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



A地区調査地遠景



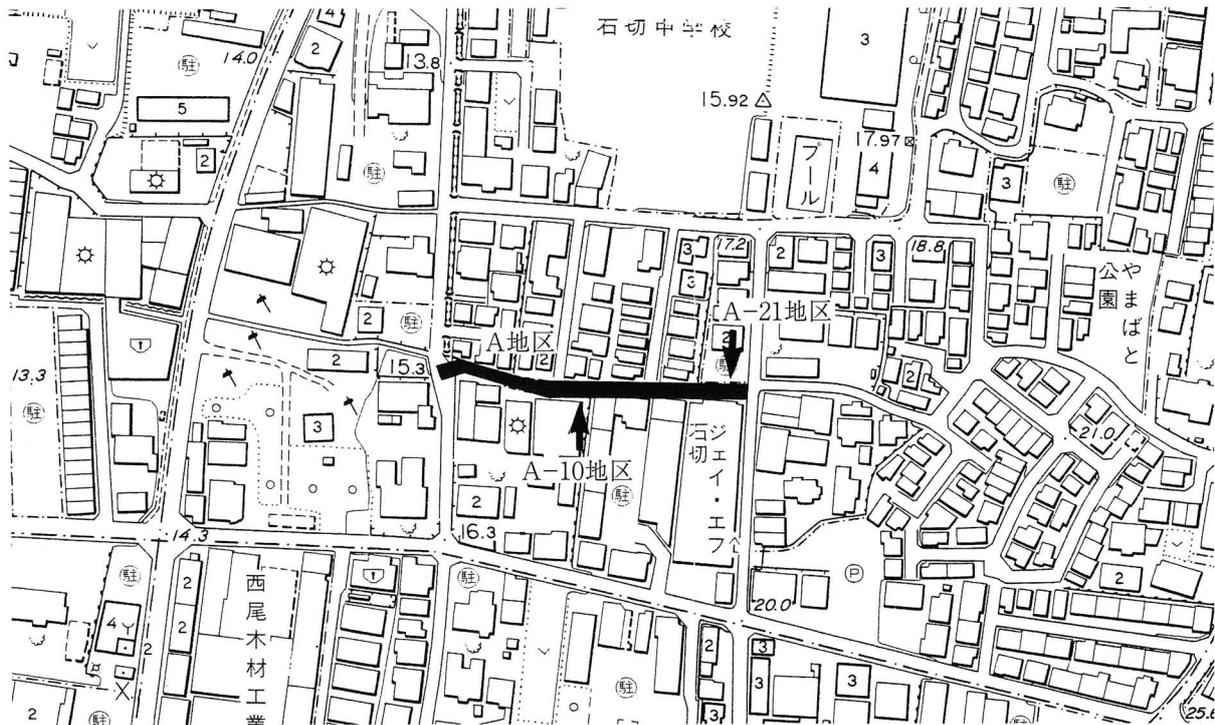
A-2地区土層断面



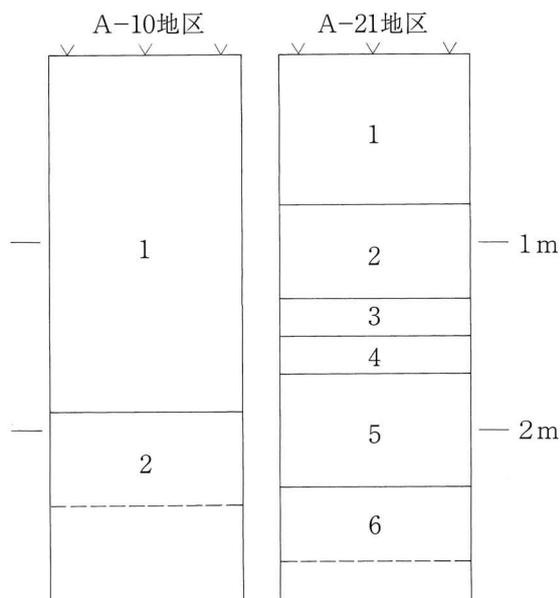
A-5地区土層断面

しばがおか 第3章 芝ヶ丘遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成17年度公共下水道第17工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市中石切町4丁目2092-4~2099番地
3	調 査 面 積	291㎡
4	調 査 期 間	平成18年7月24日~19年2月13日(延べ64日)
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切中学校の南である。当地点は芝ヶ丘遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8~2.1mで長さ204mの間であり、開削工法である。



第1図 調査地点位置図 (1/2500)



第2図 土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-10地区の層序

第1層 盛土。

第2層 オリーブ黒色 (10Y3/1) 細～中粒砂混じり粘土。

A-21地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂混じり粘土。

第3層 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土。

第4層 暗灰色 (N3/0) 粘土。

第5層 暗青灰色 (5B4/1) 粘土。

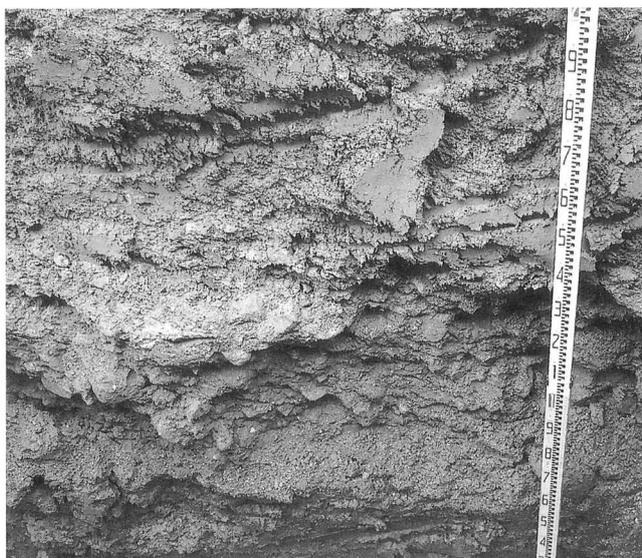
第6層 黒色 (2.5GY2/1) 粘土混じり粗粒砂。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



A地区調査地遠景



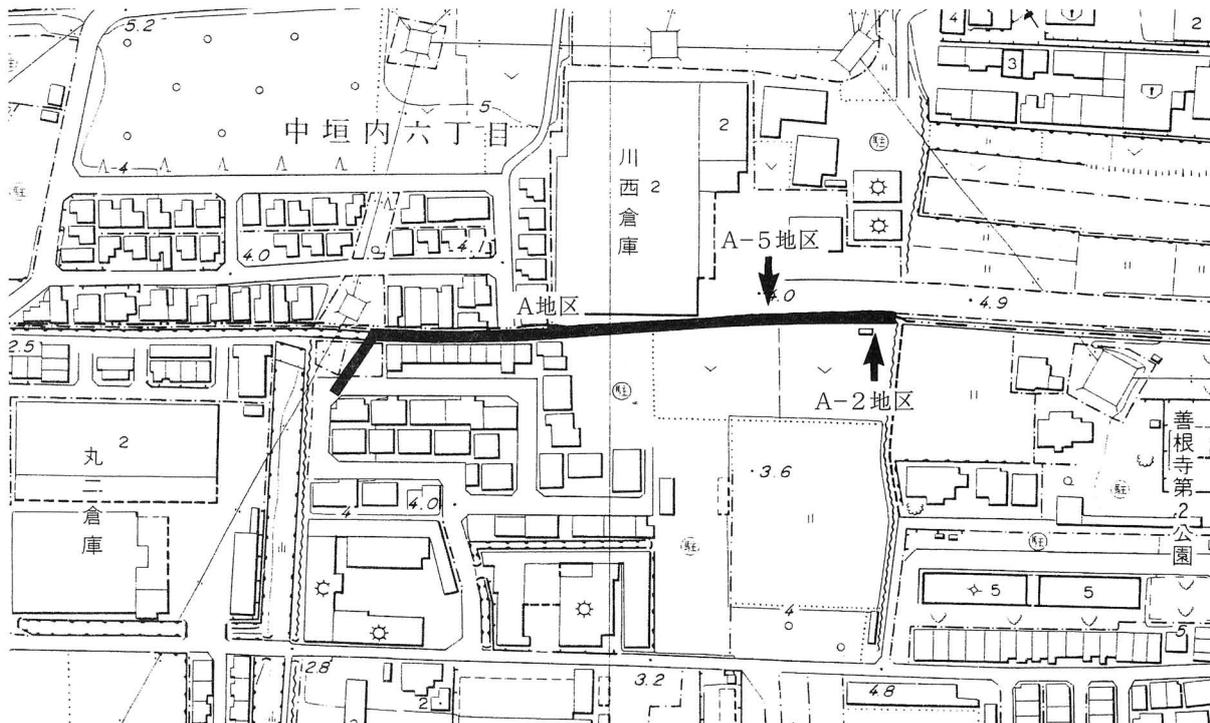
A-10地区土層断面



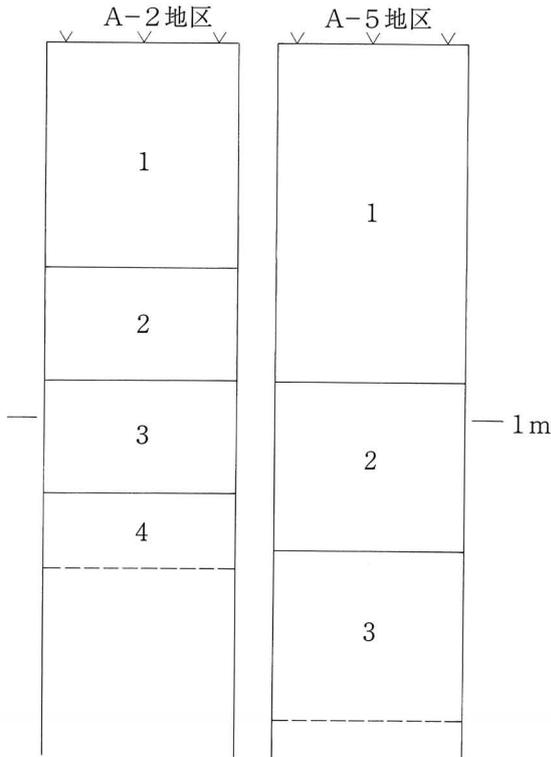
A-21地区土層断面

なかがいと 第4章 中垣内遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成17年度公共下水道第25工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市善根寺町4丁目289～310-6番地
3	調 査 面 積	78㎡
4	調 査 期 間	平成18年11月1日～19年1月25日（延べ22日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は関西電力東大阪変電所の南である。当地点は中垣内遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ71mの間であり、開削工法である。



第1図 調査地点位置図 (1/2500)



第2図 土層断面柱状図



A地区調査地遠景



A-2地区土層断面



A-5地区土層断面

1. 調査の概要

A-2地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 灰色(7.5Y4/1)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 灰色(10Y4/1)細粒砂。
- 第4層 灰色(10Y5/1)粗粒砂。

A-5地区の層序

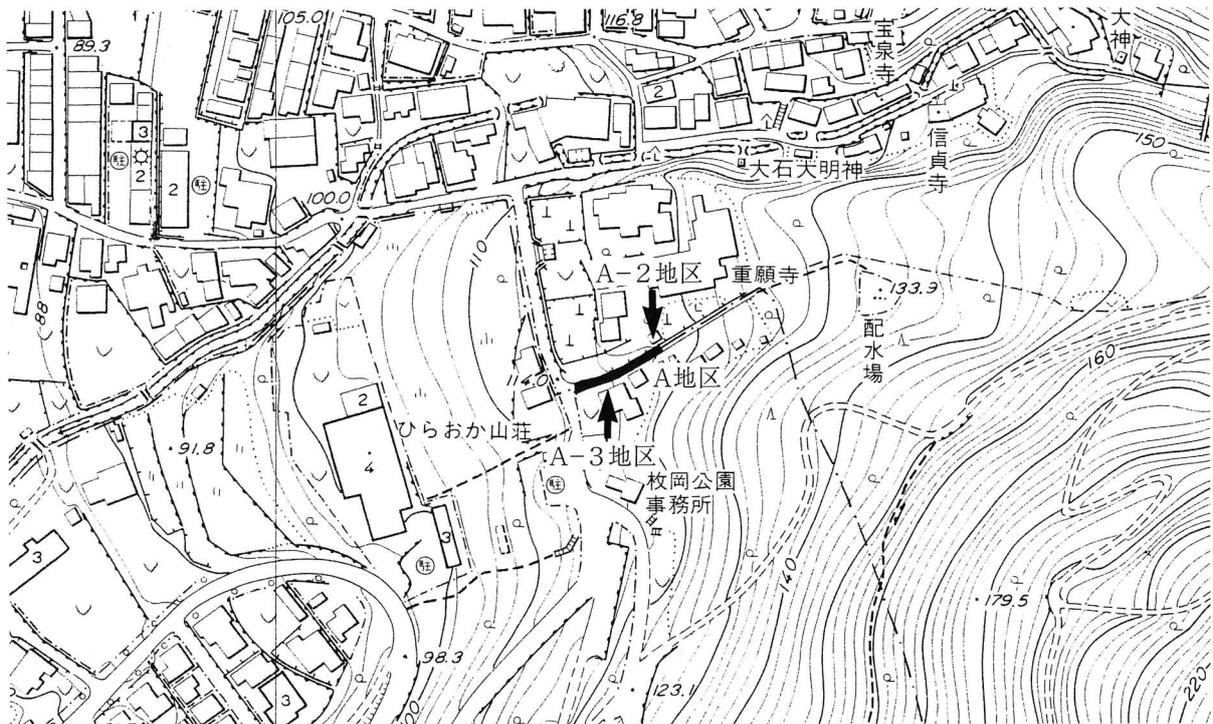
- 第1層 盛土。
- 第2層 暗緑灰色(10G3/1)中粒砂混じり粘土。
- 第3層 オリーブ灰色(5GY5/1)中～粗粒砂混じり粘土。

2. まとめ

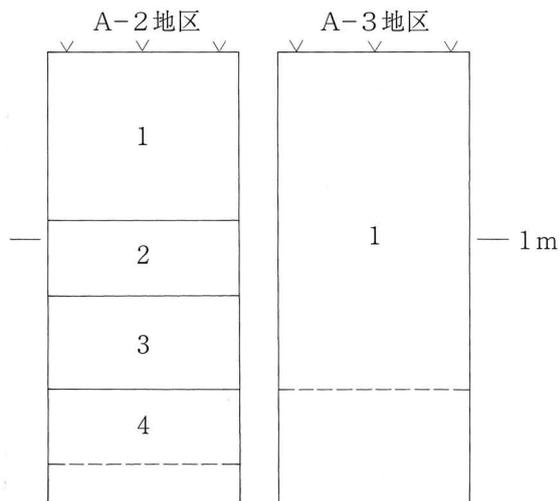
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第5章 ^{やま}みかん山古墳群の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成17年度公共下水道第205工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市東豊浦町2164番地
3	調 査 面 積	33㎡
4	調 査 期 間	平成19年3月15日～3月30日（延べ10日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線額田駅の東である。当地点はみかん山古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ32mの間であり、開削工法である。



第1図 調査地点位置図 (1/2500)



第2図 土層断面柱状図



A地区調査地遠景

1. 調査の概要

A-2地区の層序

第1層 盛土。

第2層 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 細粒砂
混じり粘土。

第3層 黄褐色 (2.5Y5/3) 細粒砂混じり
粘土。

第4層 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粗粒砂。

A-3地区の層序

第1層 盛土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出
できなかった。



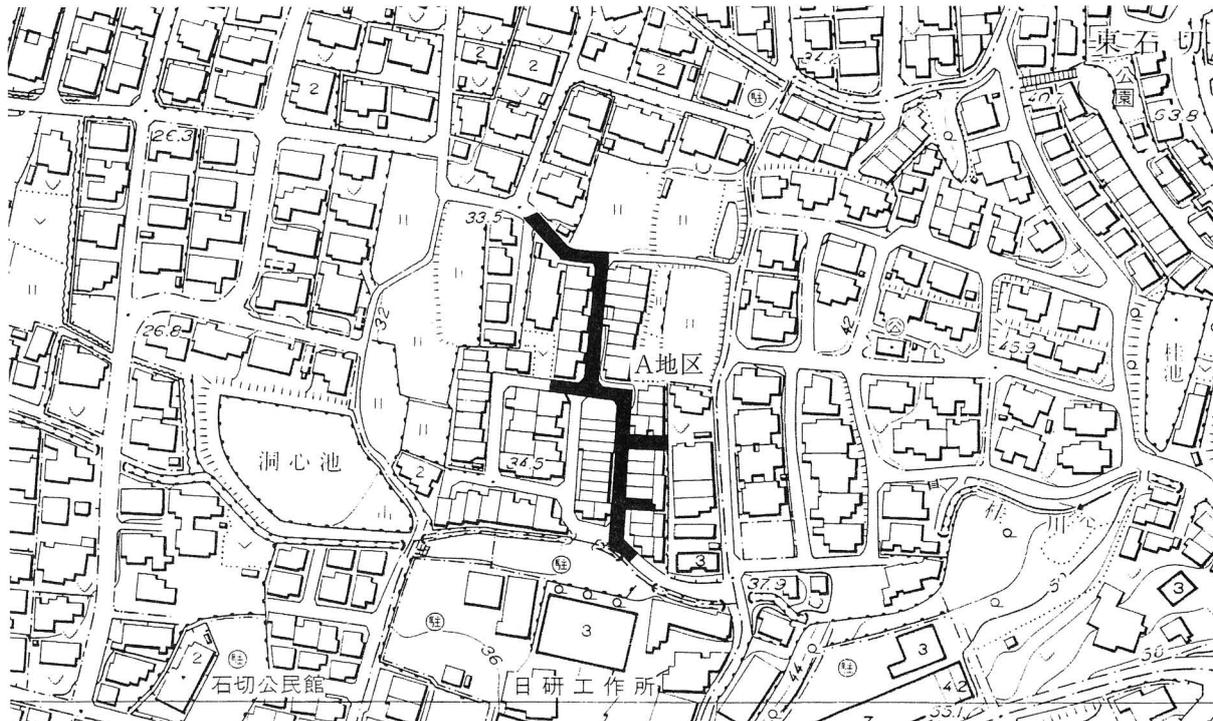
A地区調査状況



A-2地区土層断面

第6章 しばがおか 芝ヶ丘遺跡の第15次調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成17年度公共下水道第23工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市北石切町1918～1940番地
3	調 査 面 積	253㎡
4	調 査 期 間	平成19年3月7日～4月27日（延べ29日）
5	報 告 担 当	松田
6	調 査 の 経 過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切中学校の東である。当地点は芝ヶ丘遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ288mの間であり、開削工法である。</p>



第1図 調査地点位置図 (1/2500)

1. 調査の概要

調査は北側より行った。立会調査時には遺構・遺物は検出できなかった。調査終了後に、工事中に採集した遺物を施工業者より届けられた。

2. 層序

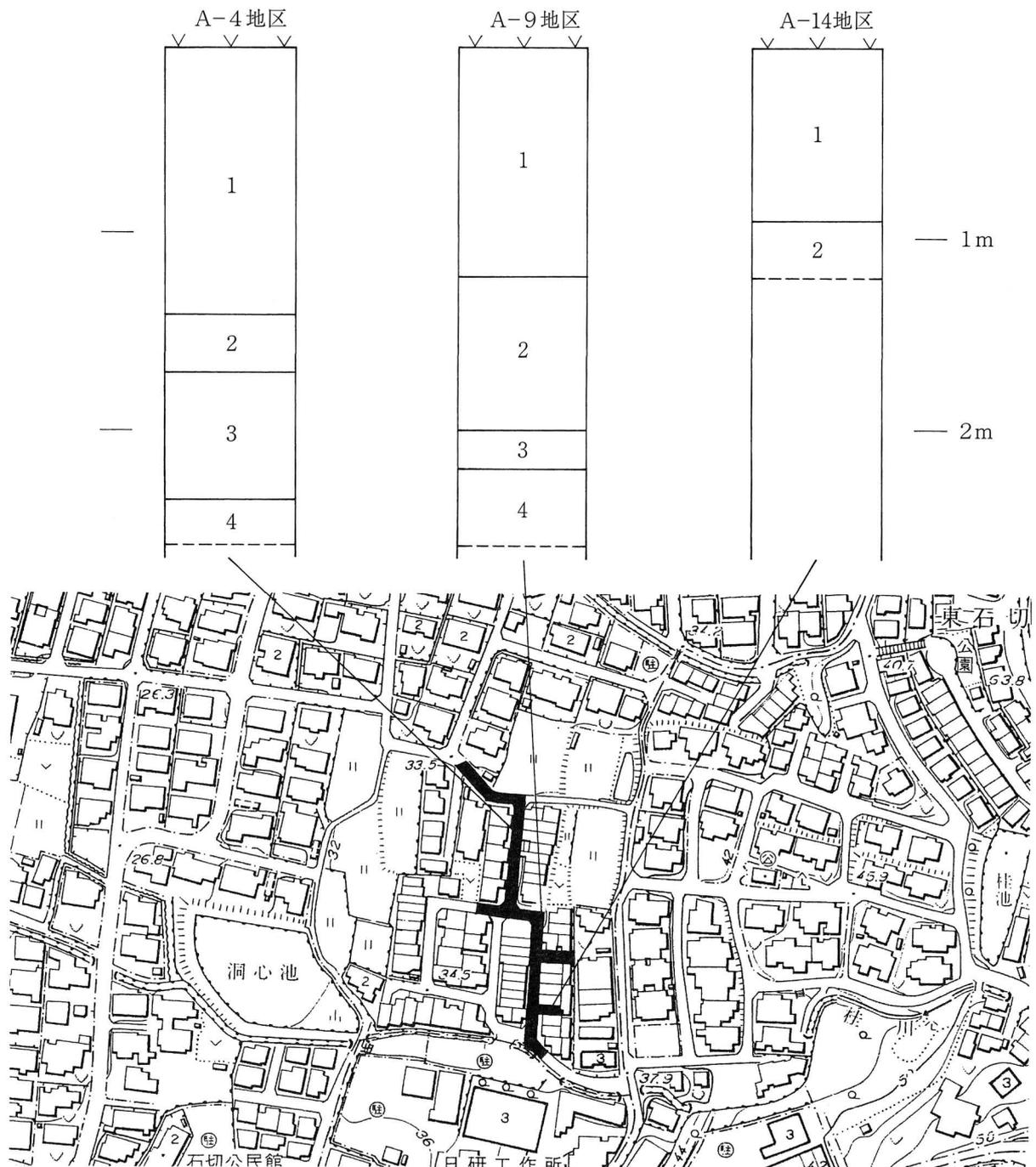
A-4地区

第1層 盛土。

第2層 褐色(7.5YR4/6)シルト。

第3層 黒褐色(10YR3/1)粘質シルト。

第4層 灰オリーブ色(5Y5/2)シルト。



第2図 土層断面柱状図

A-9地区

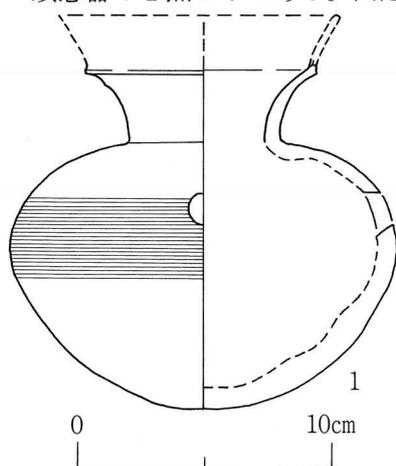
- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂混じりシルト。
- 第3層 褐色(7.5YR4/6)シルト。
- 第4層 黒褐色(10YR3/1)粘質シルト。

A-14地区

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗緑灰色(5G3/1)細粒砂混じりシルト。

3. 出土遺物

須恵器の1点のみである。田辺昭三氏編年『須恵器大成』1981年を参考にした。



第3図 採集遺物実測図

甕である。口縁部を欠損する。口縁部は外上方へ短く伸び、口径は体部最大径よりも小さい形状になる。口頸部は屈曲し、段を持つ。体部最大径は上部約1/2~1/3に位置する。それよりやや上位に径1.2cmの円孔を穿つ。体部に文様はみられない。底部はやや尖り気味である。内面のほぼ全体と、外面の円孔付近から上部に緑色のガラス質の小斑が付着し、自然釉が残る。内面は頸部から体部をナデ調整する。底部は巻き上げ技法の痕跡が残る。外面は頸部を回転ナデ調整する。体部はカキメ調整する。底部は指オサエ調整の後、回転ナデ調整する。焼成は硬質である。残存高は14.0cm、体部最大径は15.0cmを測る。5世紀後半(TK216型式)のものである。採集地点は不明である。

4. まとめ

調査地は遺跡の南東端に位置する。今回、施工業者の御協力により、遺存状態の良い須恵器を採集することができた。調査中に掘削土を確認したが、遺物は出土しなかった。須恵器の採集地点・状況等の詳細は不明であるが、調査地周辺に古墳時代の遺物包含層が存在する可能性が高い。



1

採集遺物 (須恵器)



A 地区調査地遠景



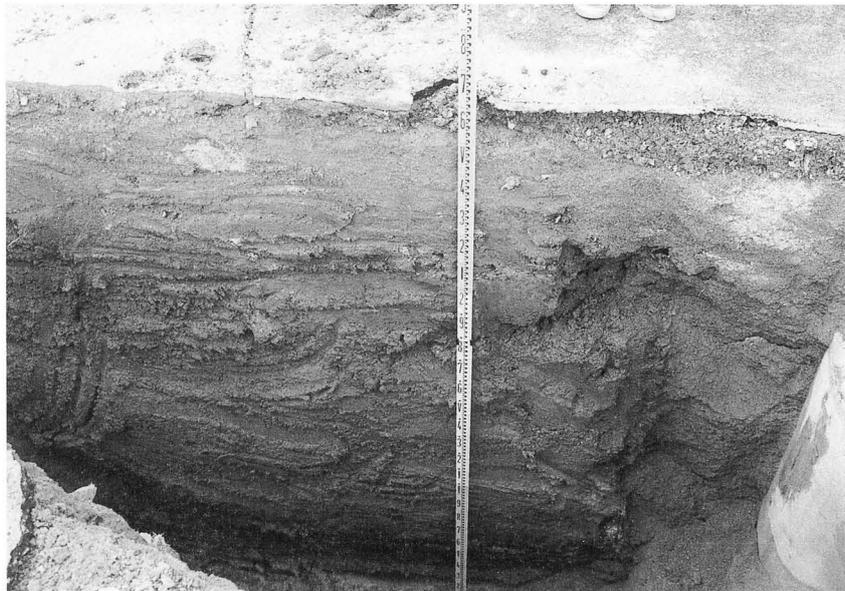
A 地区調査状況



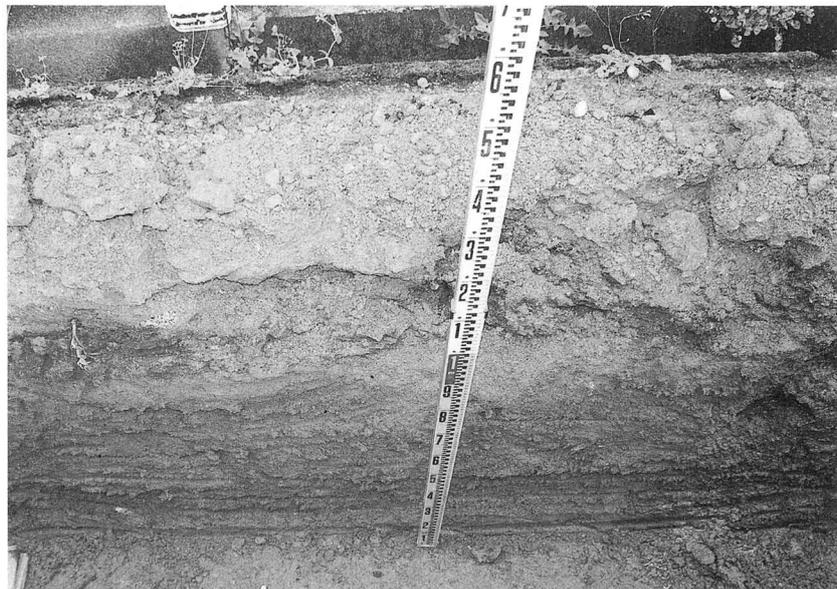
A-2 地区土層断面



A-4地区土層断面



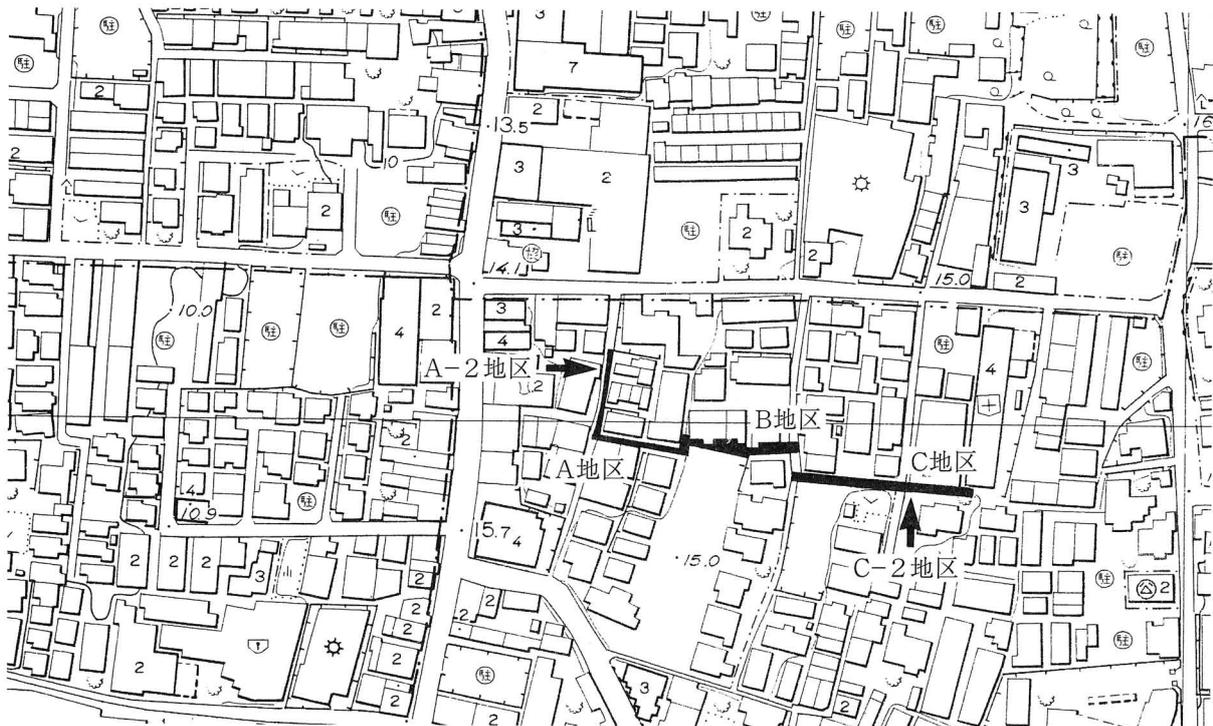
A-9地区土層断面



A-14地区土層断面

しじり 第7章 市尻遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成17年度公共下水道第107工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市四条町587～588番地
3	調 査 面 積	24㎡
4	調 査 期 間	平成18年7月24日～12月11日（延べ47日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線瓢箪山駅の南である。当地点は市尻遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ30mの間であり、開削工法である。



第1図 調査地点位置図 (1/2500)



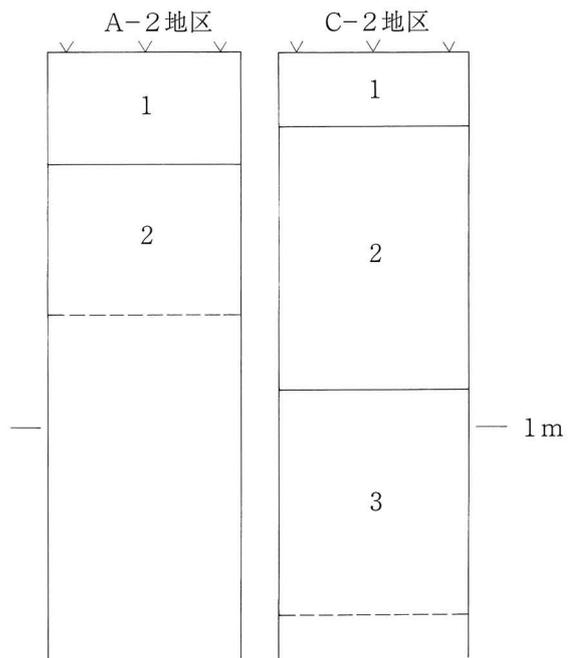
A 地区調査地遠景



A-2 地区土層断面



C-2 地区土層断面



第2図 土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-2 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒色 (2.5GY2/1) 中粒砂混じりシルト。

C-2 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒色 (2.5GY2/1) 細粒砂混じり粘質土。

第3層 黒色 (7.5Y2/1) 粗粒砂混じり粘土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第8章 せんじゅじやま 千手寺山遺跡の調査

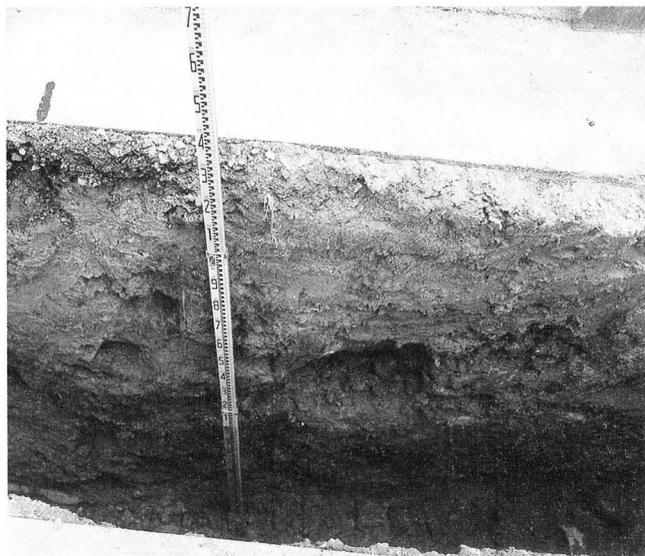
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成17年度公共下水道第204工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市東石切町4丁目363～1636番地
3	調 査 面 積	308㎡
4	調 査 期 間	平成18年8月25日～12月14日（延べ42日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線石切駅の西である。当地点は千手寺山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ363mの間であり、開削工法である。



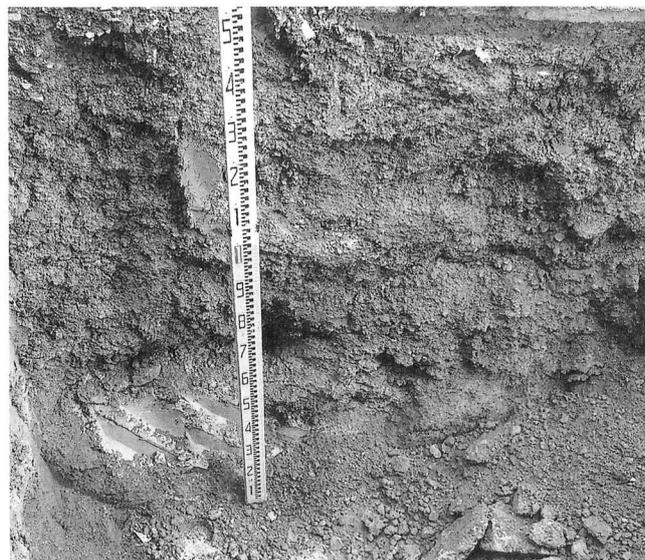
第1図 調査地点位置図 (1/2500)



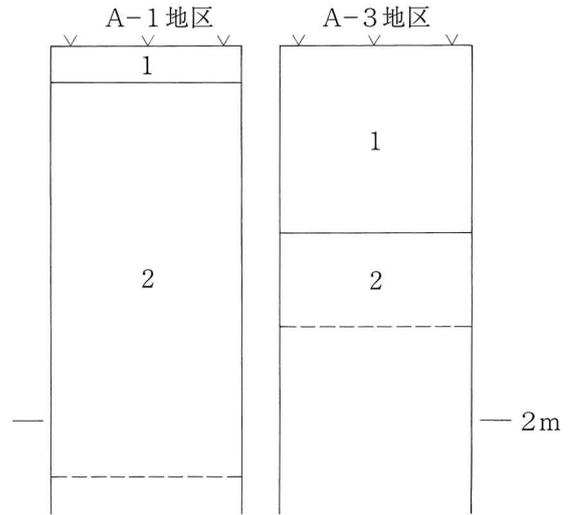
A 地区調査地遠景



A-1 地区土層断面



A-3 地区土層断面



第2図 土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-1 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 明赤褐色 (5YR5/8) 巨礫混じり砂質土。

A-3 地区の層序

第1層 盛土。

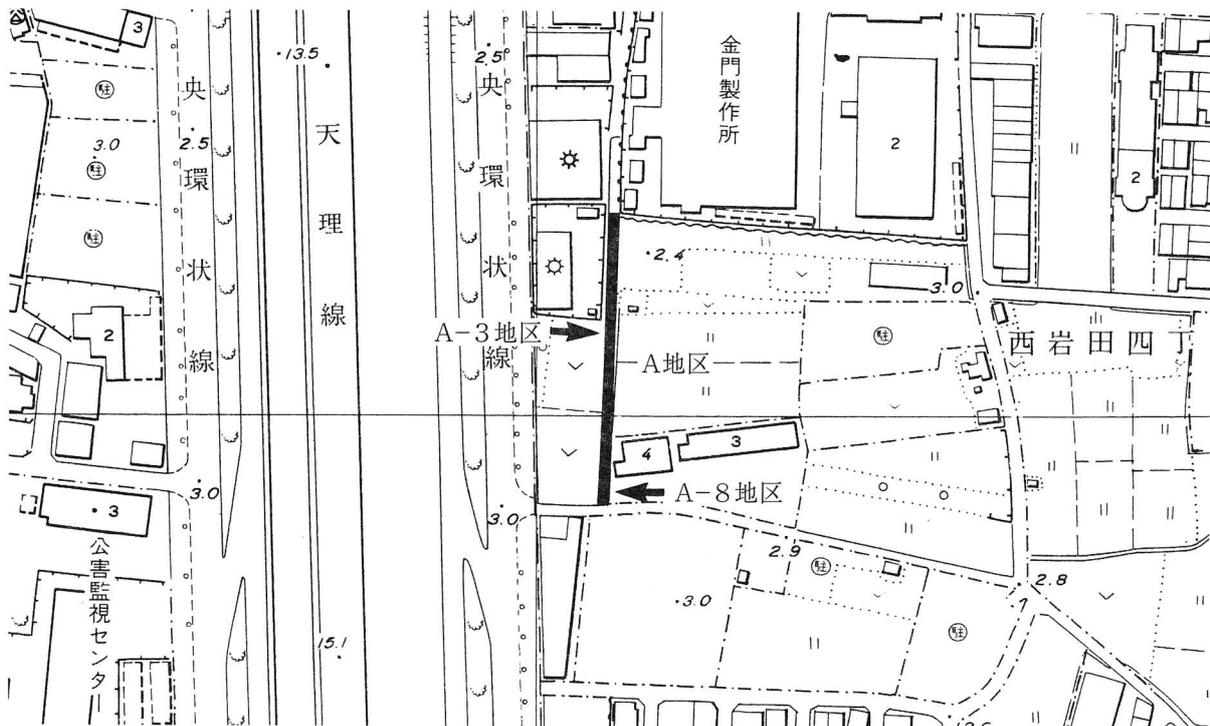
第2層 明黄褐色 (2.5Y7/6) シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

にしわた 第9章 西岩田遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成17年度公共下水道第203工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市西岩田4丁目75、153、952、953番地
3	調 査 面 積	172㎡
4	調 査 期 間	平成18年11月21日～12月5日（延べ8日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は市立総合病院の東である。当地点は西岩田遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ176mの間であり、開削工法である。



第1図 調査地点位置図 (1/2500)



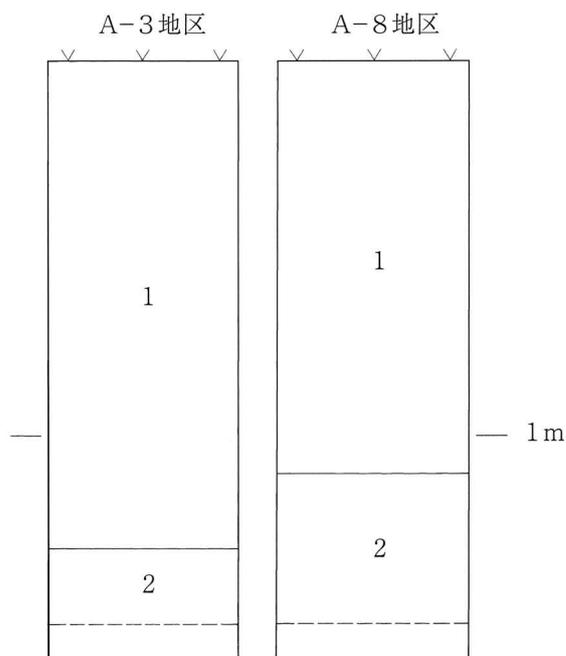
A地区調査地遠景



A-3地区土層断面



A-8地区土層断面



第2図 土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-3地区の層序

第1層 盛土。

第2層 緑灰色(10GY5/1)中粒砂混じり粘土。

A-8地区の層序

第1層 盛土。

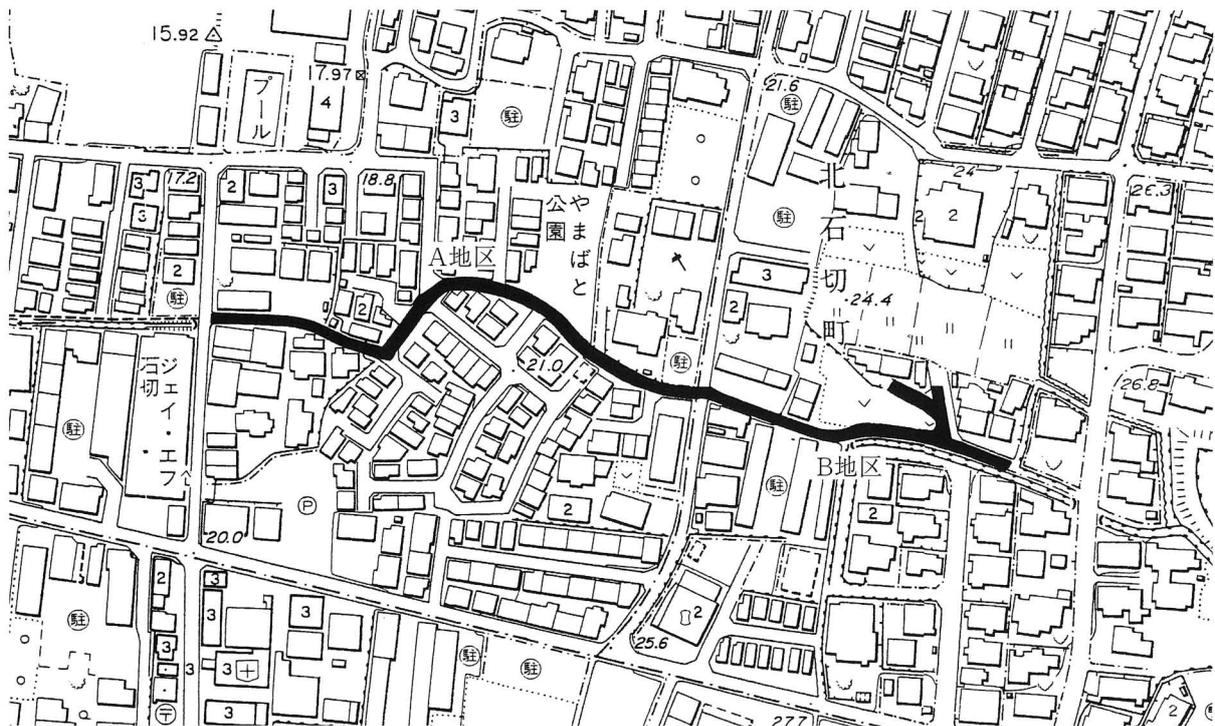
第2層 暗青灰色(5BG3/1)粗粒砂混じり粘土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

しばがおか
第10章 芝ヶ丘遺跡の第14次調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成17年度公共下水道第18工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市中石切町4丁目2158～2187番地
3	調 査 面 積	213㎡
4	調 査 期 間	平成18年12月6日～19年6月26日（延べ57日）
5	報 告 担 当	松田
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切中学校の南東である。当地点は芝ヶ丘遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ250mの間であり、開削工法である。



第1図 調査地点位置図 (1/2500)

1. 調査の概要

調査地は便宜上A・B地区に分けた。A地区は既設管内の下水管敷設工事のため、立会調査はおこなわなかった。B地区で中世期の遺物が出土した。

2. 層序

B-3地区

第1層 盛土。

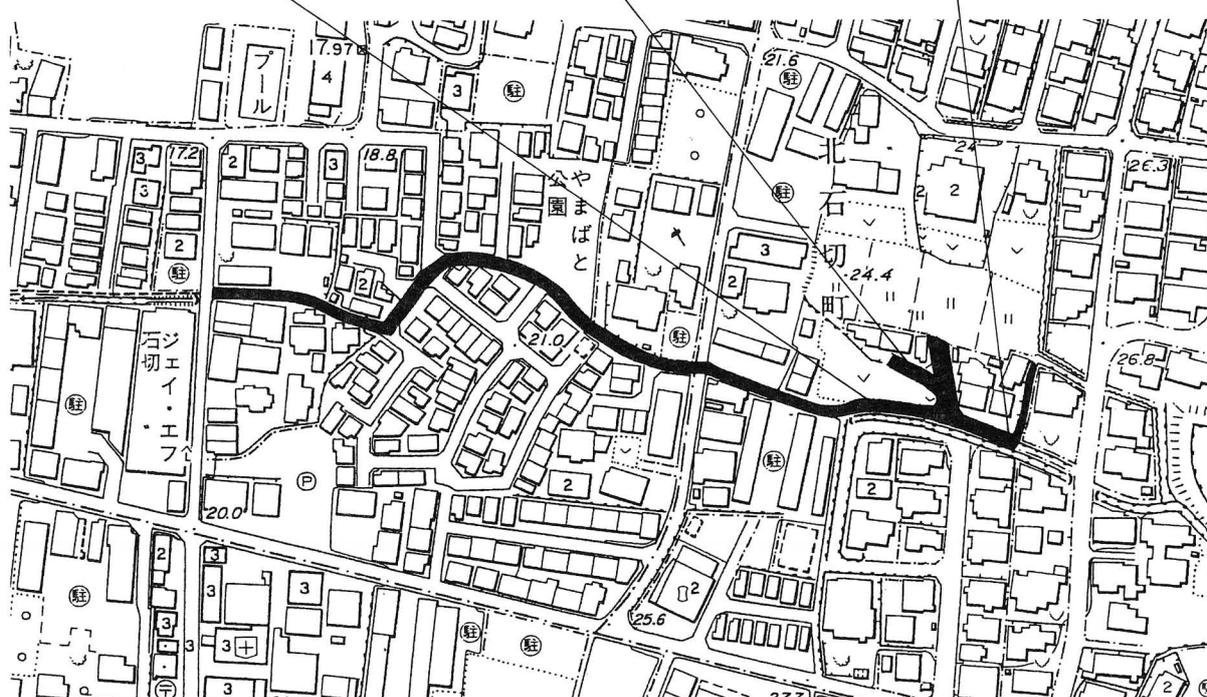
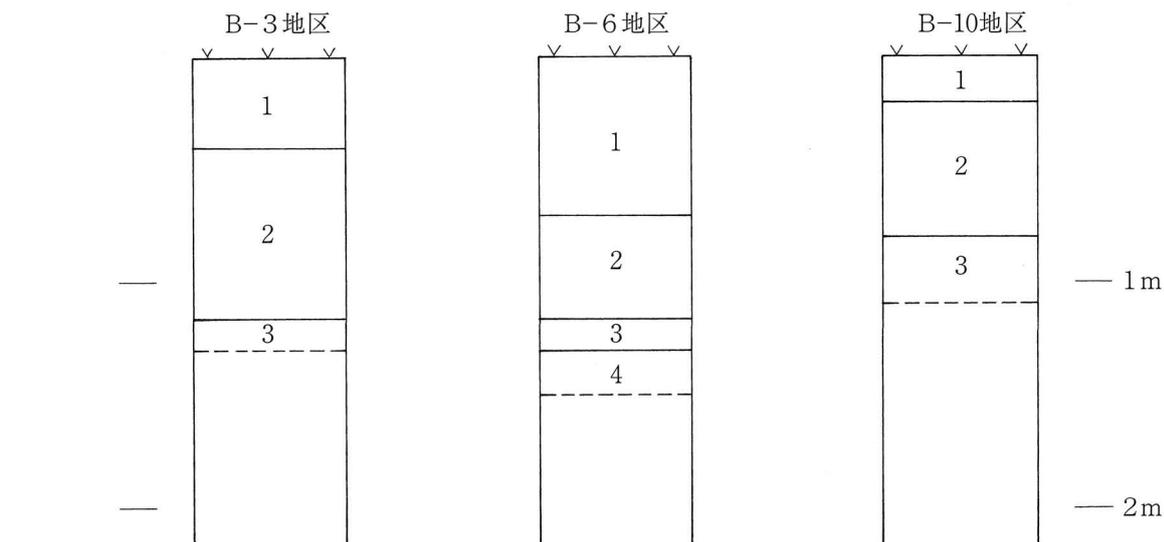
第2層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粗粒砂混じり粘質シルト。5～30cm大の礫を含む。

第3層 暗オリーブ灰色(5GY3/1)粗粒砂混じり粘質土。

B-6地区

第1層 盛土。

第2層 オリーブ黒色(10Y3/1)粘質シルト。



第2図 土層断面柱状図

第3層 オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じり粘質土。中世期の遺物が出土。

第4層 黒色(7.5Y2/1)砂混じり粘質土。中世期の遺物が出土。

B-10地区

第1層 盛土。

第2層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト質粗粒砂。

第3層 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粗粒砂混じりシルト。10~30cm大の礫を含む。

3. 出土遺物

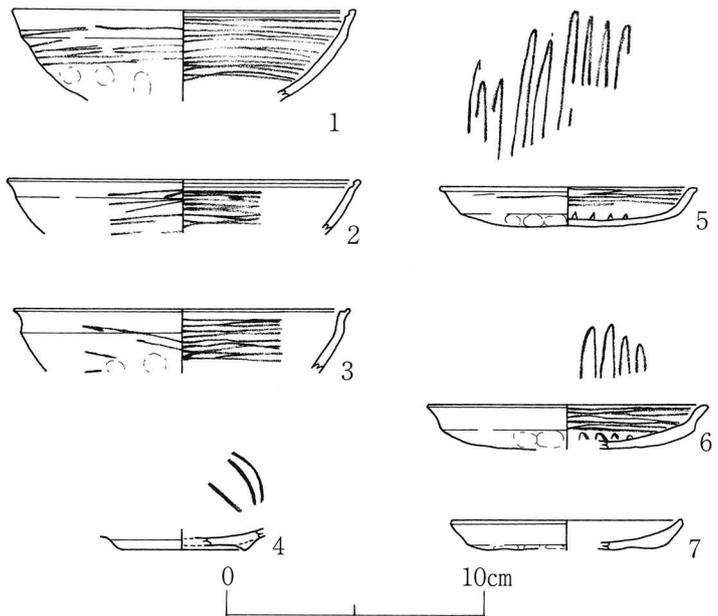
今回の調査では、土師器、瓦器が出土した。図化できたのは7点である。瓦器碗は川越俊一氏編年『概説 中世の土器・陶磁器』1995年を参考にした。すべてB-6地区の第3・4層より出土した。

1~6は瓦器である。1~3は大和型の碗である。口縁部はわずかに外反する。口縁端部内面に1条の沈線を廻らせる。内面は密なヘラミガキ調整する。外面は口縁部をヨコナデ調整の後、粗いヘラミガキ調整する。体部はユビオサエ調整の後、粗いヘラミガキ調整する。外面のヘラミガキは水平方向で、分割性は認められない。焼成は硬質である。1は口径が13.4cm、残存高は3.7cmを測る。2は口径が13.6cm、残存高は2.2cmを測る。3は口径が13.0cm、残存高は2.6cmを測る。川越編年のⅢ-A期に相当する。12世紀後半のものである。4は碗の底部である。高台は低く、断面は三角形を呈する。見込み部はナデ調整の後、連結輪状の暗文を施す。高台はヨコナデ調整する。底部はユビオサエ調整する。焼成は軟質である。底径は4.8cm、残存高は0.8cmを測る。12世紀後半~13世紀前半のものである。5・6は小皿である。5は口縁端部が外側へ肥厚する。内面は口縁部を密なヘラミガキ調整する。見込み部は9回以上のジグザグ状暗文を施す。外面は口縁部を粗いヘラミガキ調整する。底部はユビオサエ調整する。焼成は硬質である。口径は10.0cm、器高は1.6cmを測る。6は口縁部が緩やかに外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁部外面に接合痕が残る。見込み部に4回以上のジグザグ状暗文を施した後、口縁部内面を密なヘラミガキ調整する。外面は口縁部をヨコナデ調整する。底部はユビオサエ調整する。焼成は硬質である。口径は10.8cm、残存高は1.8cmを測る。12世紀中頃~後半のものである。

7は土師器の小皿である。口縁端部は三角形状を呈する。内面はナデ調整する。外面は口縁部をヨコナデ調整する。底部はユビオサエ調整する。口径は8.9cm、残存高は1.2cmを測る。12世紀中頃~後半のものである。

4. まとめ

芝ヶ丘遺跡では、過去の調査で縄文~古墳時代と中世期の遺構・遺物を確認している。中世期の資料は遺跡南東端でおこなわれた第8次調査で出土している。遺跡内は昭和30~40年代に宅地造成工事が行われており、掘削を受けて盛土層の直下で地山層が検出されることが多い。今回の調査ではB-6・7地区で中世期の遺物がまとまって出土し、遺物包含層を確認した。第8次調査で出土した遺物とはほぼ同時期と思われる。近辺に当時期の集落が広がる可能性が高い。



第3図 出土遺物実測図



B 地区調査地遠景



B 地区調査状況



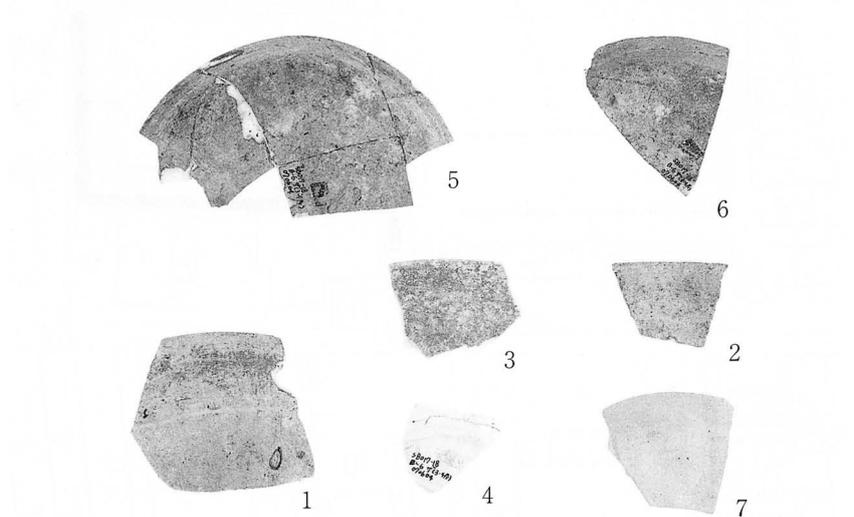
B-3 地区土層断面



B-6地区土層断面



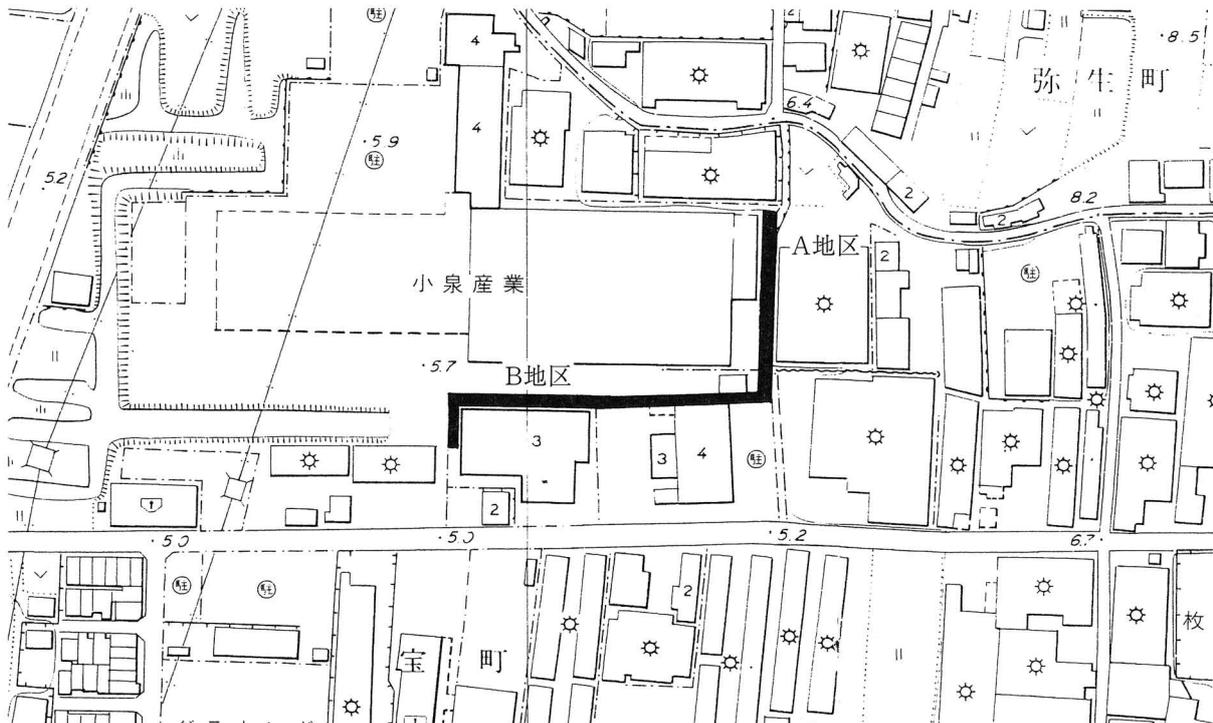
B-10地区土層断面



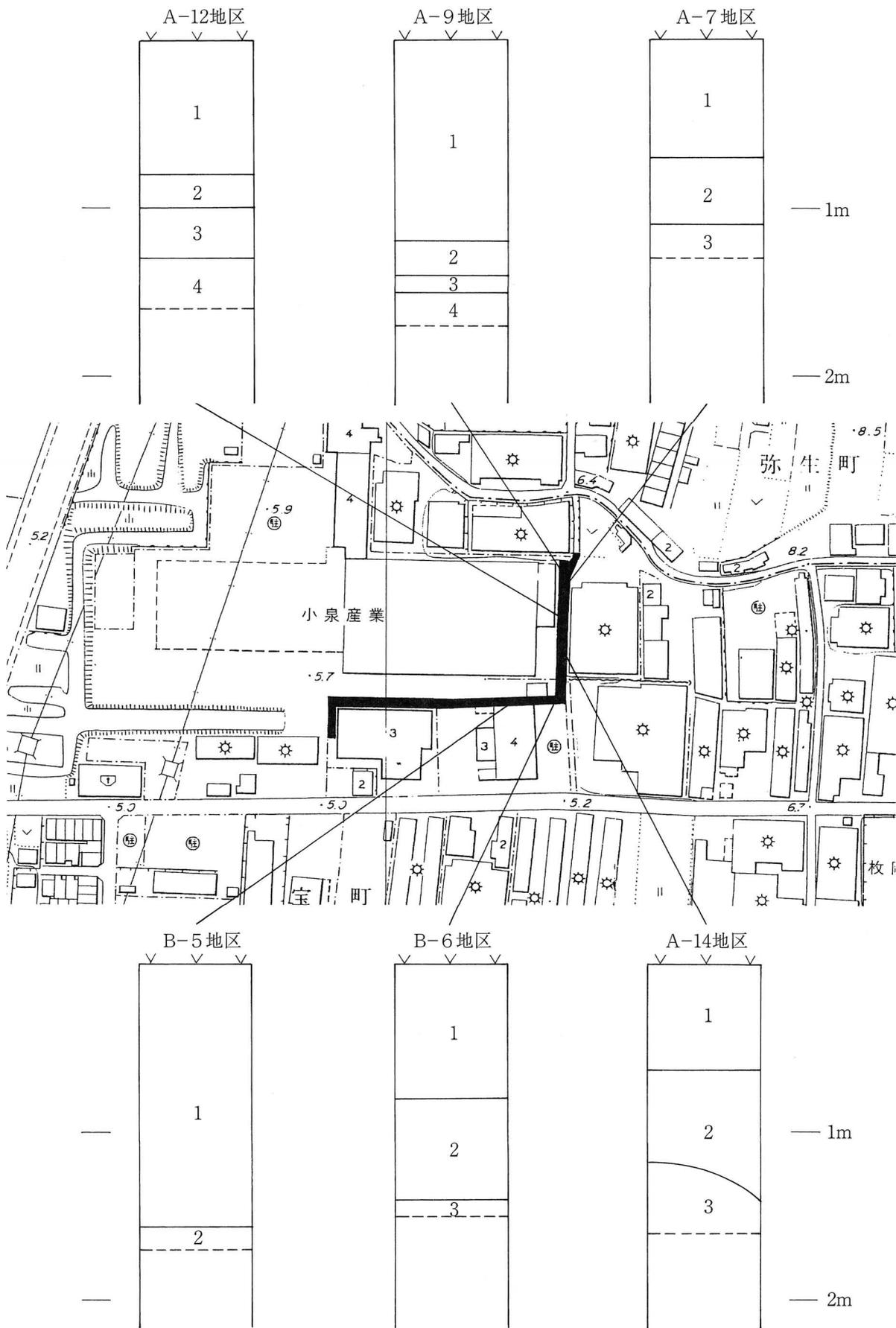
出土遺物（瓦器・土師器）

きとらがわ
第11章 鬼虎川遺跡の第66次調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成18年度公共下水道第16工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市宝町1653番地
3	調 査 面 積	149㎡
4	調 査 期 間	平成19年3月15日～6月12日（延べ16日）
5	報 告 担 当	松田
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄けいはんな線新石切駅の南西である。当地点は鬼虎川遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ149mの間であり、開削工法である。



第1図 調査地点位置図 (1/2500)



第2図 土層断面柱状図

1. 調査の概要

調査地は便宜上A・B地区に分け、B地区より調査を開始した。B地区は現代の水路が通っており、地表下1.6m前後までコンクリートの擁壁が設置されている。遺物はA地区で出土し、A-9地区では布留式期の遺物包含層を確認した。

2. 層序

A-7地区

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(2.5Y3/2)シルト。小礫を含む。
- 第3層 暗青灰色(5BG3/1)細～中粒砂混じりシルト。

A-9地区

- 第1層 盛土。
- 第2層 灰色(10Y5/1)砂質土。
- 第3層 灰色(10Y4/1)シルト。
- 第4層 黒色(5Y2/1)粘土。布留式期の遺物が出土。

A-12地区

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗オリーブ灰色(5GY3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粗粒砂混じり粘質土。
- 第4層 暗緑灰色(5G3/1)細粒砂混じり粘質シルト。

A-14地区

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗緑灰色(5G3/1)細粒砂混じりシルト。中礫を含む。
- 第3層 暗青灰色(5BG4/1)細粒砂混じり粘質土。中礫を含む。

B-5地区

- 第1層 コンクリートの擁壁。
- 第2層 黒色(10Y2/1)シルト。

B-6地区

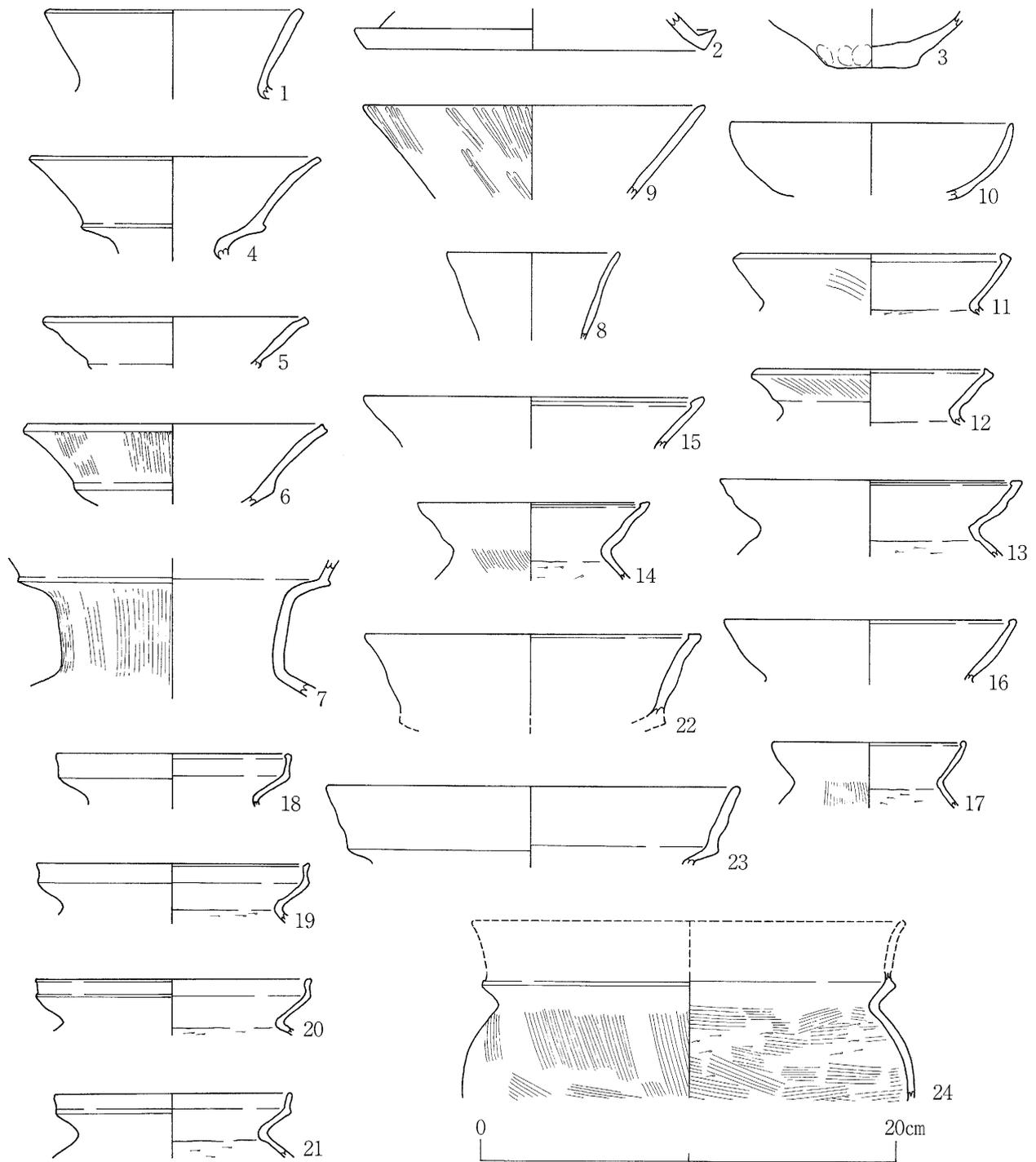
- 第1層 コンクリートの擁壁。
- 第2層 盛土。
- 第3層 オリーブ黒色(10Y3/1)粗粒砂混じり粘質土。

3. 出土遺物

今回の調査では、弥生土器、布留式土器、土師器、瓦器が出土した。布留式土器が多く、図化できたのは24点である。土師器、瓦器は図化できるものがなかった。

弥生土器(1～3)

胎土中に角閃石を多く含むことから、生駒西麓産である。1は壺である。口縁部は外上方へ立ち上がる。口縁端部は面を持つ。内外面はナデ調整する。口径は11.9cm、残存高は4.4cmを測る。弥生時代後期に属する。2は高杯である。脚裾部は緩やかに立ち上がる。裾端部は上方へ拡張する。内外面はナデ調整する。底径は16.3cm、残存高は1.9cmを測る。弥生時代中期に属する。3は平底の底部である。底部より体部が外上方へ立ち上がる。内面はナデ調整する。外面は体部をユビオサエ調整、底部をヘラケズリ調整する。底径は3.5cm、残存高は2.8cmを測る。弥生時代後期に属する。1はA-11地区、



第3図 出土遺物実測図

2はA-10地区、3はA-14地区より出土した。

布留式土器(4~24)

壺、高杯、甕がある。A-9地区の第4層より出土した。

壺(4~8)

4~7は口頸部に段を持つ複合口縁の壺である。4~6は口縁部が緩やかに外反する。口縁端部は面を持つ。4は外面に黒斑を有する。風化が著しく調整法は不明である。口径は13.6cm、残存高は4.8cmを測る。5は風化が著しく調整法は不明である。口径は12.3cm、残存高は2.5cmを測る。6は内面の

風化が著しく調整法は不明である。外面はヘラミガキ調整する。口径は14.0cm、残存高は4.0cmを測る。7は口縁部を欠損する。頸部は垂直に立ち上がる。内面はヨコナデ調整する。外面はハケメ調整する。残存高は6.8cmを測る。8は長頸壺である。口縁部は緩やかに外上方へ伸びる。口縁端部はやや尖り気味に終わる。内面はナデ調整する。外面は風化が著しく調整法は不明である。口径は8.2cm、残存高は4.3cmを測る。

高杯(9・10)

9は杯部が深い形状を呈する。口縁部は外上方へ直線的に伸びる。口縁端部はやや尖り気味に終わる。内面はナデ調整する。外面はヘラミガキ調整する。口径は16.2cm、残存高は4.6cmを測る。10は杯部が浅い碗状を呈する。口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁端部はやや尖り気味に終わる。内面はナデ調整する。外面は風化が著しく調整法は不明である。口径は13.6cm、残存高は3.7cmを測る。

甕(11~24)

11~17は頸部が「く」の字状に屈曲する。口縁部は外上方へ立ち上がる。口縁端部は内側へ肥厚し、端面を持つ。端面は外傾するもの(11・12)、水平なもの(13・14)、内傾するもの(15)がある。また、端面を持たず丸く終わるもの(16・17)もある。11・13・14・17は体部内面をヘラケズリ調整する。11・12は口縁部外面、14・17は体部外面をハケメ調整する。他はヨコナデ調整する。11は口径が12.6cm、残存高は3.0cmを測る。12は口径が10.8cm、残存高は2.8cmを測る。13は口径が14.5cm、残存高は3.8cmを測る。14は口径が11.0cm、残存高は3.8cmを測る。15は口径が16.2cm、残存高は2.5cmを測る。16は口径が13.9cm、残存高は3.2cmを測る。17は口径が9.2cm、残存高は3.3cmを測る。

18~24は口縁部が受口状を呈する。18~21は頸部が「く」の字状に屈曲する。口縁部は短く直線的に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。風化が著しいため口縁部外面に凹線文は確認できないが、吉備系土器と考えられる。18の外面は風化が著しく調整法は不明である。19~21の内面は口縁部をナデ調整する。体部はヘラケズリ調整する。外面はナデ調整する。18は口径が11.0cm、残存高は2.7cmを測る。19は口径が13.0cm、残存高は2.9cmを測る。20は口径が13.2cm、残存高は2.8cmを測る。21は口径が11.2cm、残存高は3.2cmを測る。22~24は口縁部が長く外上方へ立ち上がる。山陰系土器と考えられる。22は口縁端部が内側へ肥厚し、端面を持つ。内外面はヨコナデ調整する。口径は16.0cm、残存高は4.0cmを測る。23は口縁端部が丸く終わる。内外面はヨコナデ調整する。口径は19.6cm、残存高は3.9cmを測る。24は口縁部を欠損するが、長く外上方へ立ち上がると考えられる。体部はあまり張らない。内面はヘラケズリ調整の後、ハケメ調整する。外面は頸部をヨコナデ調整する。体部はハケメ調整する。残存高は6.3cmを測る。

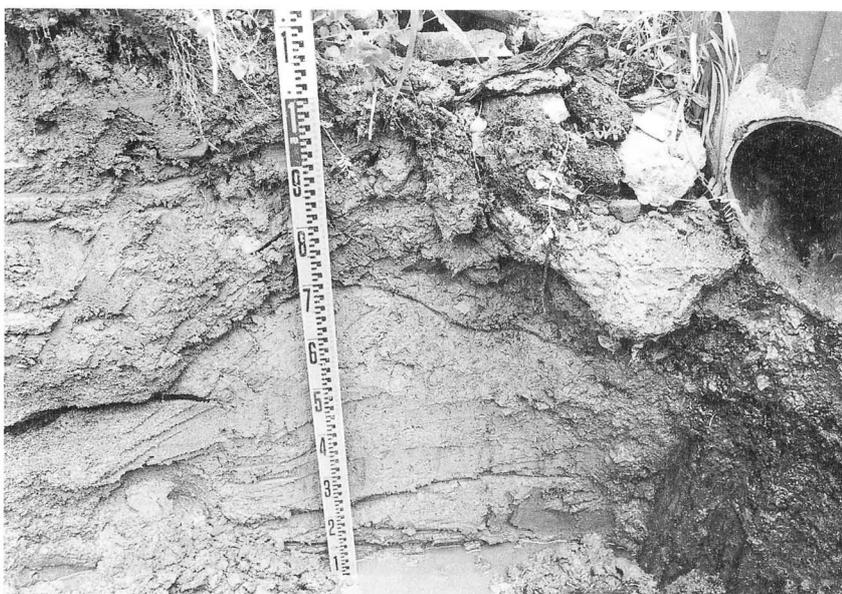
4. まとめ

今回の調査地は、国道170号線の東約200m、国道308号線の南約400mの地点である。遺跡の中心よりやや南東に位置する。調査の掘削深度は地表下1.7mであった。A-9地区では布留式期の遺物包含層を地表下1.5m付近で確認した。前後の地区では遺物包含層を確認することはできなかったが、周辺に広がる可能性が高い。調査地近辺では発掘調査はほとんどなされていないため、不明な点が多い。

過去の調査では布留式期の遺物の出土例は少なく、第36次調査で確認されているだけである。この調査は平成4年に遺跡の南端で実施された。本調査地より南西約450mの地点に位置する。調査面積は83㎡と狭いが、布留式期の良好な遺物が多数出土した。周辺に集落が形成されていたと考えられている。今回の調査でも同時期の遺物包含層を確認した。調査地周辺に集落の存在が考えられる。集落は少なくとも2箇所が存在した可能性が高い。また、出土遺物の中には吉備系や山陰系と思われる甕があることから、他地域との交流を考える上では貴重な資料である。



A 地区調査状況



A-7 地区土層断面



A-9 地区土層断面



A-11地区土層断面



A-12地区土層断面



A-14地区土層断面



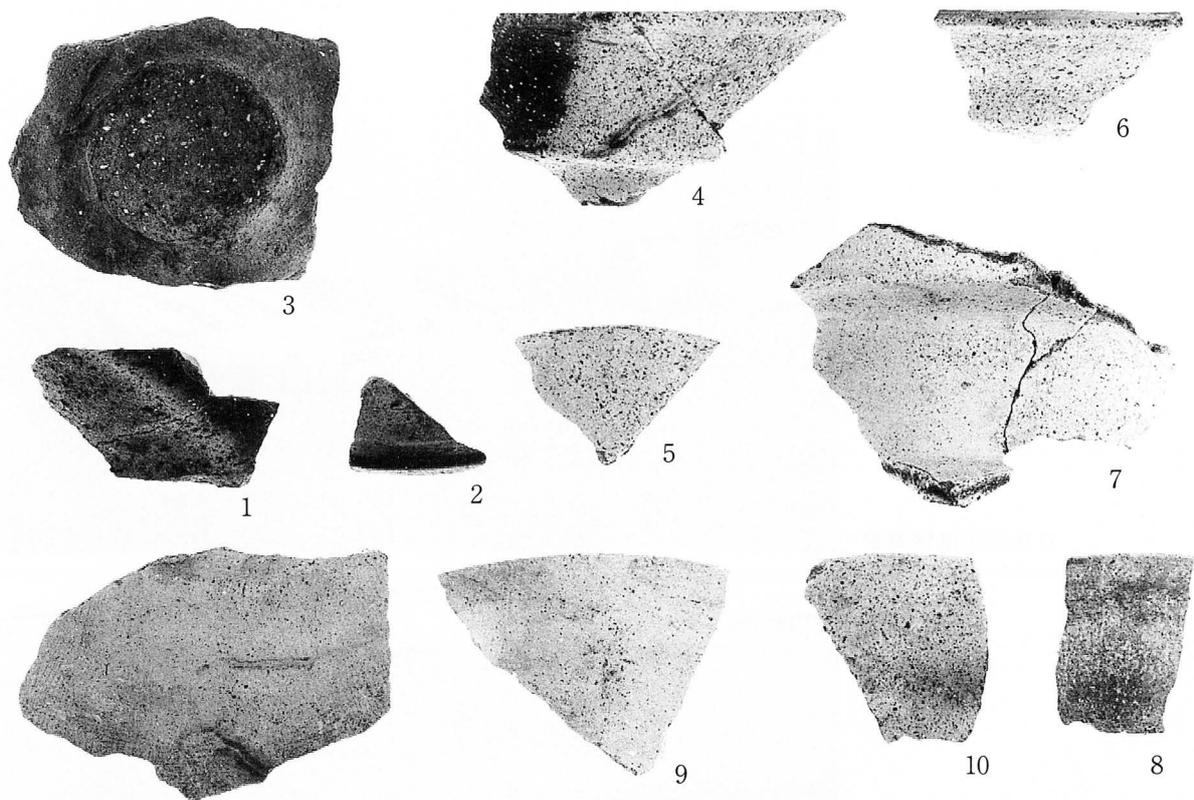
B地区調査地遠景



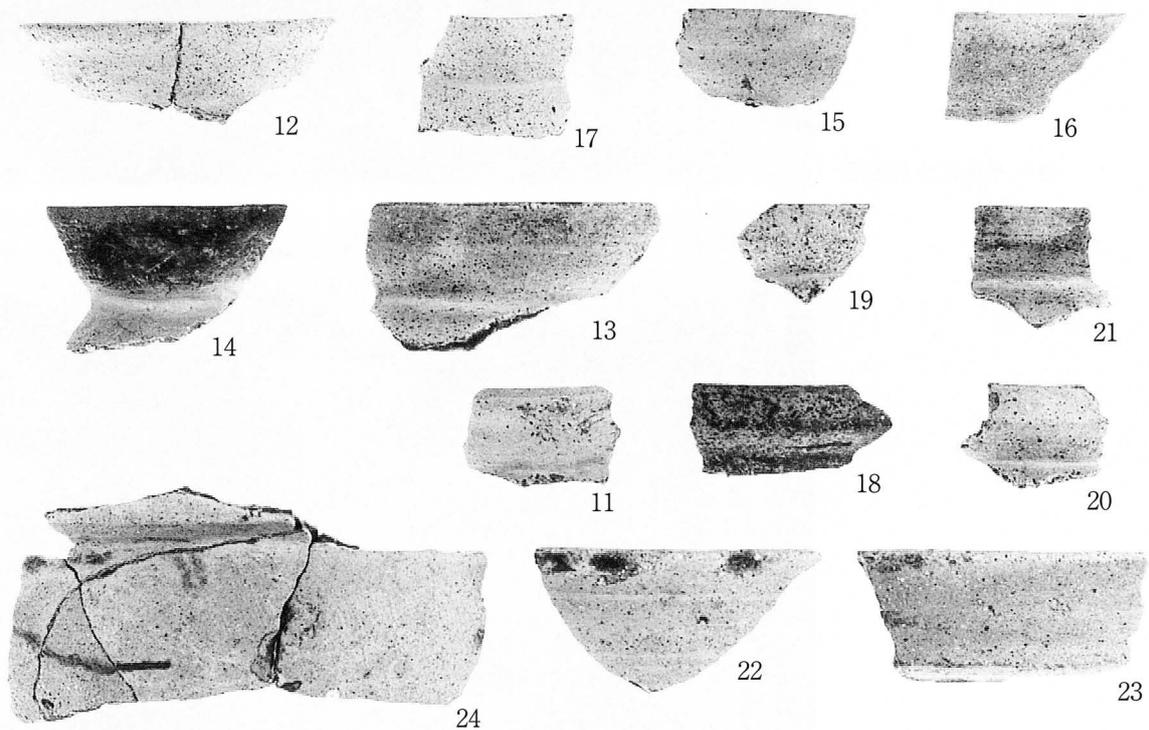
B-5地区土層断面



B-6地区土層断面



出土遺物 (弥生土器・布留式土器)



出土遺物 (布留式土器)

第12章 ^{やま}みかん山古墳群の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成18年度公共下水道第13工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市東豊浦町970-15~985-1番地
3	調 査 面 積	63㎡
4	調 査 期 間	平成19年9月27日~10月23日(延べ16日)
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線石切駅の南東である。当地点はみかん山古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8~0.9mで長さ73mの間であり、開削工法である。



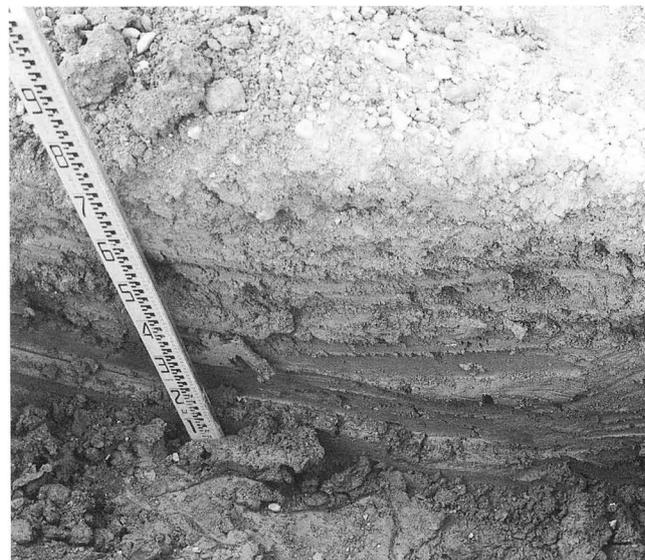
第1図 調査地点位置図 (1/2500)



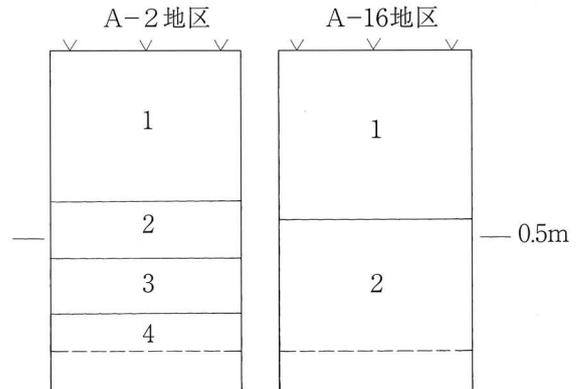
A 地区調査状況



A-2 地区土層断面



A-16地区土層断面



第2図 土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-2 地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土。
- 第3層 にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質シルト。
- 第4層 褐色(10YR4/4)シルト。

A-16地区の層序

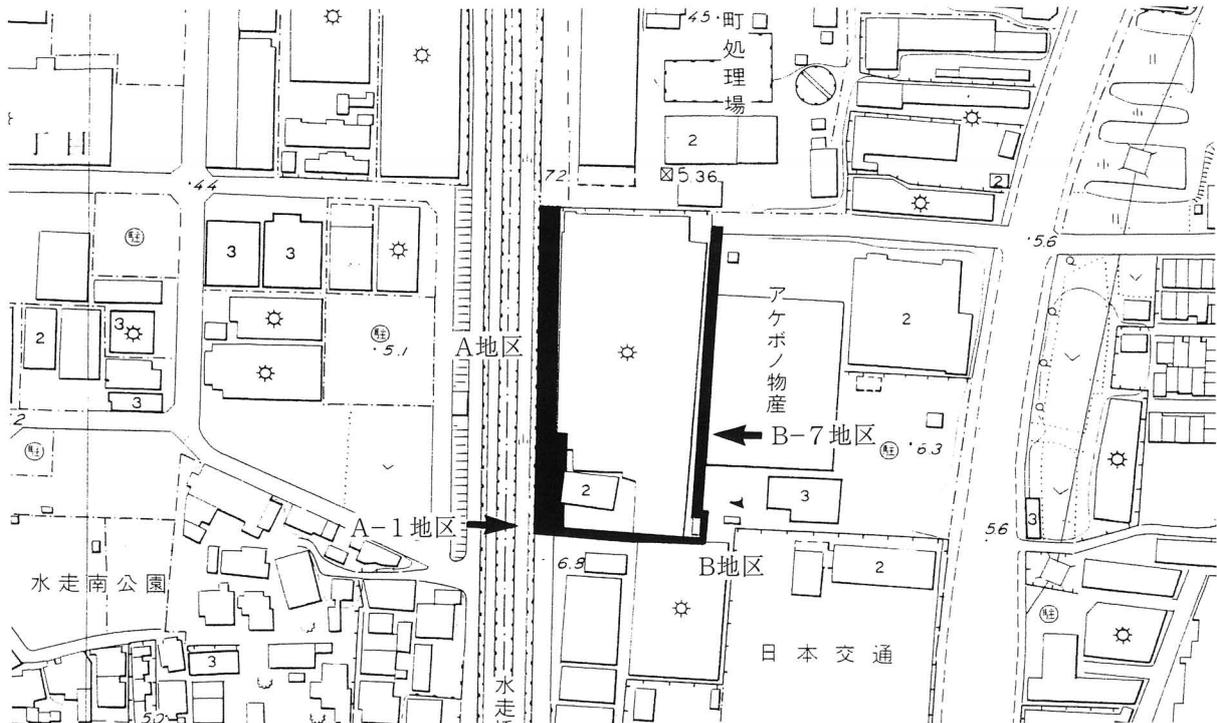
- 第1層 盛土。
- 第2層 にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂混じり粘質土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

きとらがわ 第13章 鬼虎川遺跡の調査

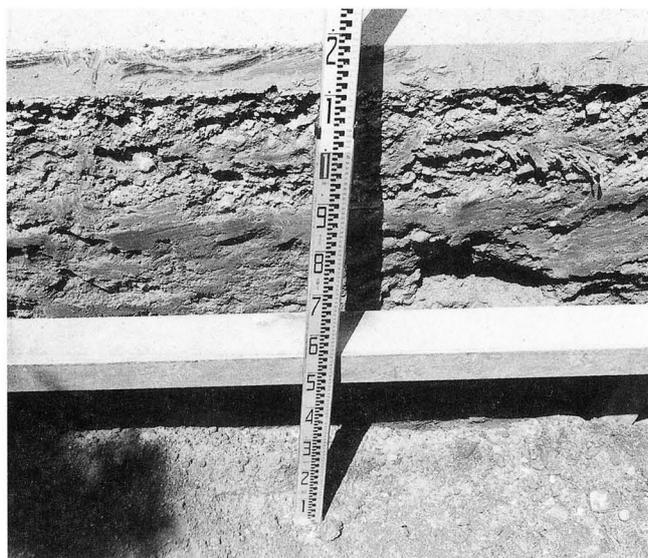
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成18年度公共下水道第210工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市宝町1687-4~2180-2、1692-1番地
3	調 査 面 積	170㎡
4	調 査 期 間	平成19年5月11日~10月31日（延べ39日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄けいはんな線新石切駅の西である。当地点は鬼虎川遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8~0.9mで長さ200mの間であり、開削工法である。



第1図 調査地点位置図 (1/2500)



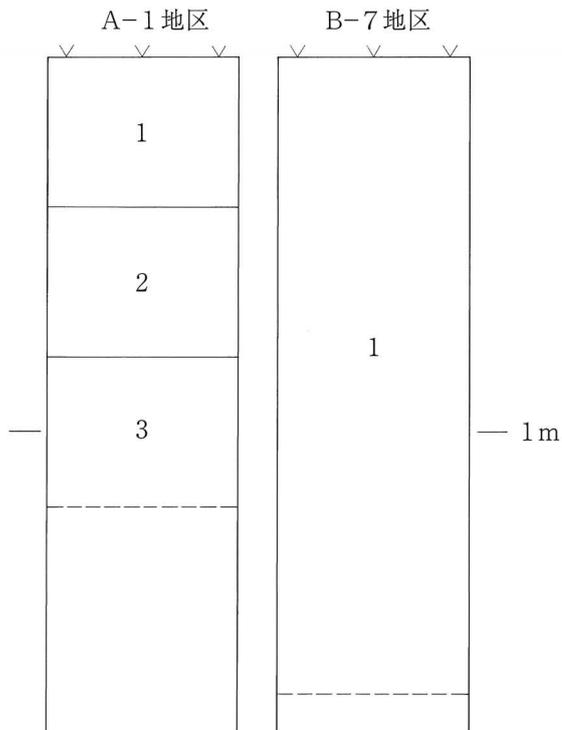
A 地区調査地遠景



A-1 地区土層断面



B-7 地区土層断面



第2図 土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-1 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗褐色(10YR3/3)細粒砂混じりシルト。

第3層 にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂混じりシルト。

B-7 地区の層序

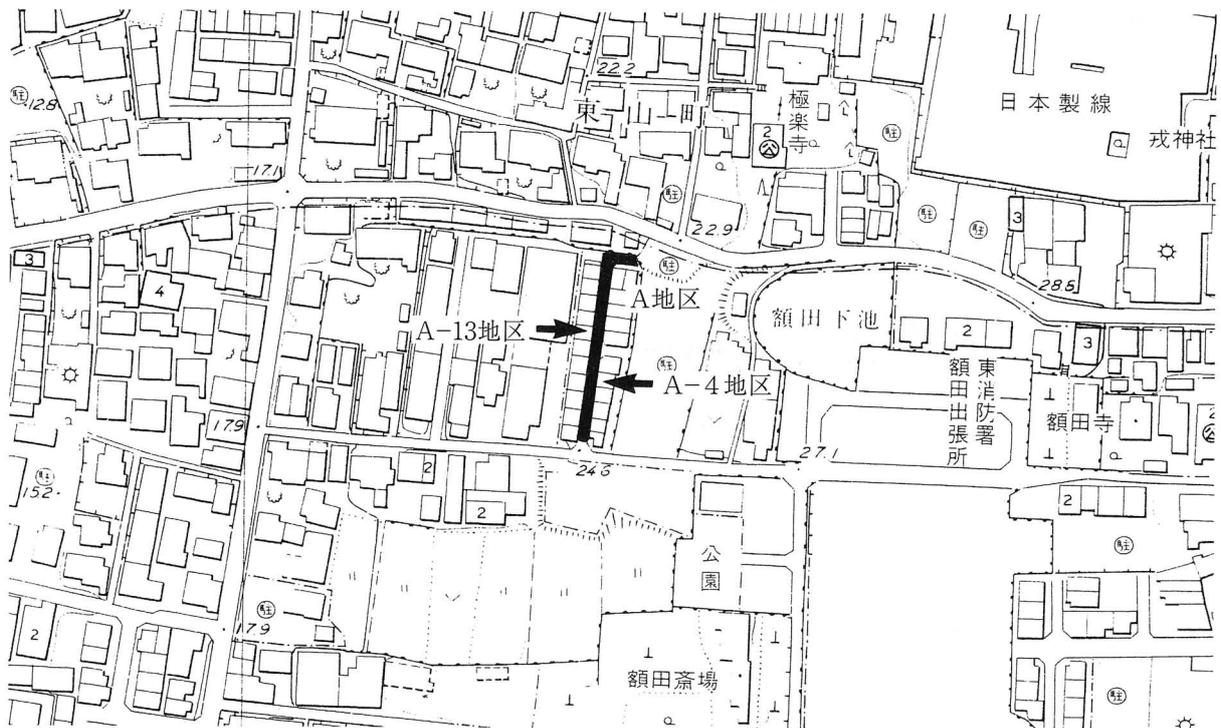
第1層 盛土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

にし の つじ 第14章 西ノ辻遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成18年度公共下水道第212工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市南荘町508-1番地
3	調 査 面 積	54㎡
4	調 査 期 間	平成19年7月12日～8月16日（延べ20日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄バス停額田西口の東である。当地点は西ノ辻遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ63mの間であり、開削工法である。



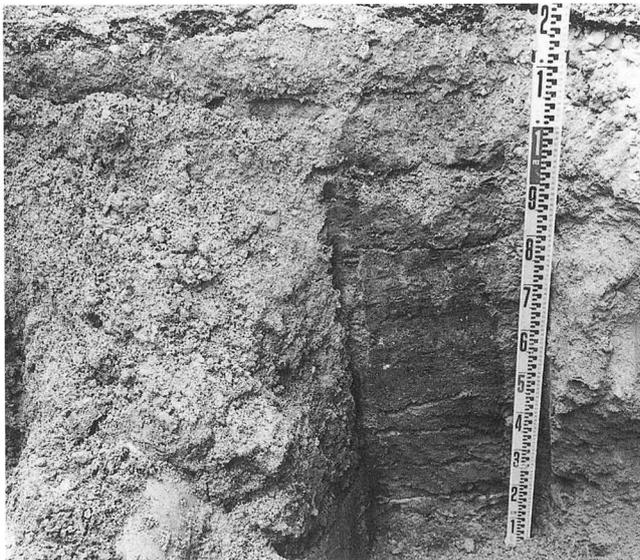
第1図 調査地点位置図 (1/2500)



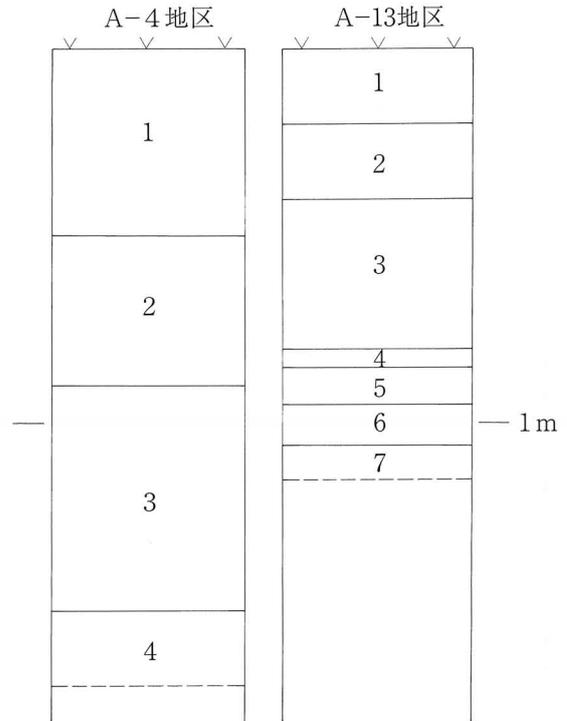
A 地区調査地遠景



A 地区調査状況



A-13地区土層断面



第2図 土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-4 地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(10YR3/1)中粒砂混じり粘質土。
- 第3層 黒褐色(10YR2/2)中粒砂混じり粘土。
- 第4層 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂~中粒砂混じり粘土。

A-13 地区の層序

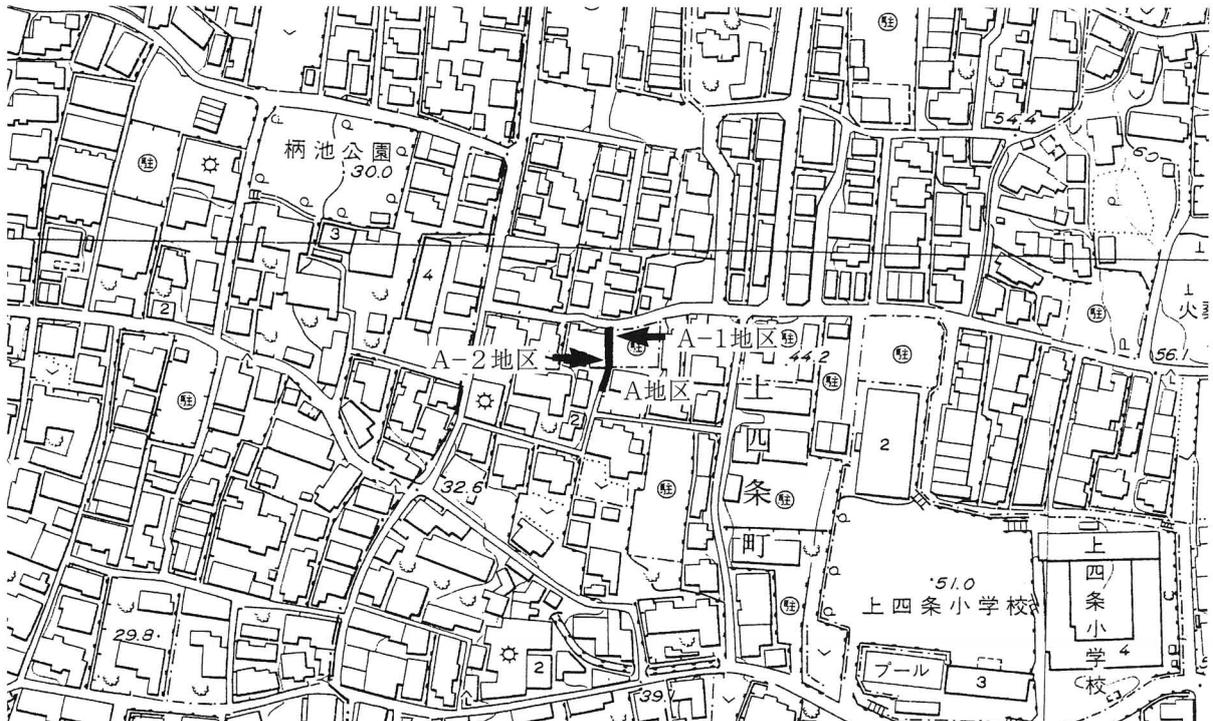
- 第1層 盛土。
- 第2層 黒色(N2/0)粘質土。
- 第3層 黒褐色(7.5YR3/2)粘質土。
- 第4層 黒褐色(10YR2/2)粘質土。
- 第5層 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂混じり粘質土。
- 第6層 暗褐色(10YR3/3)粘質土。
- 第7層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂混じりシルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

やまはた 第15章 山畑古墳群の調査

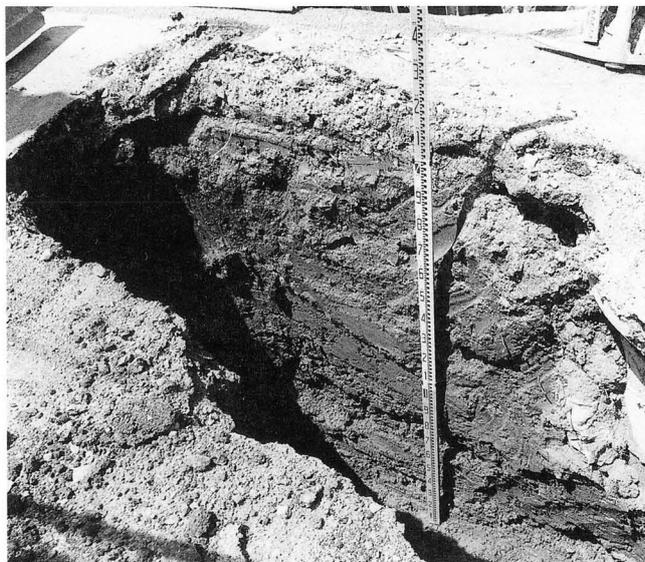
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成18年度公共下水道管きょ築造工事（上四条町）
2	調 査 地 点	東大阪市上四条町390～391番地
3	調 査 面 積	19㎡
4	調 査 期 間	平成19年5月22日～5月31日（延べ5日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は上四条小学校の西である。当地点は山畑古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ22mの間であり、開削工法である。



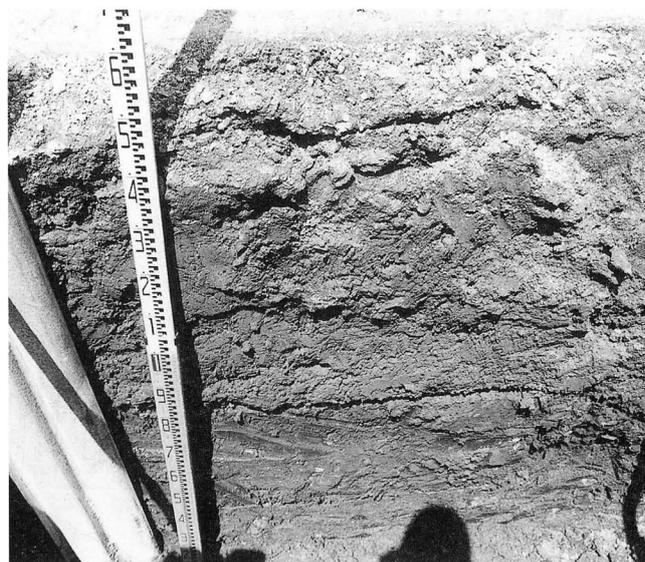
第1図 調査地点位置図（1/2500）



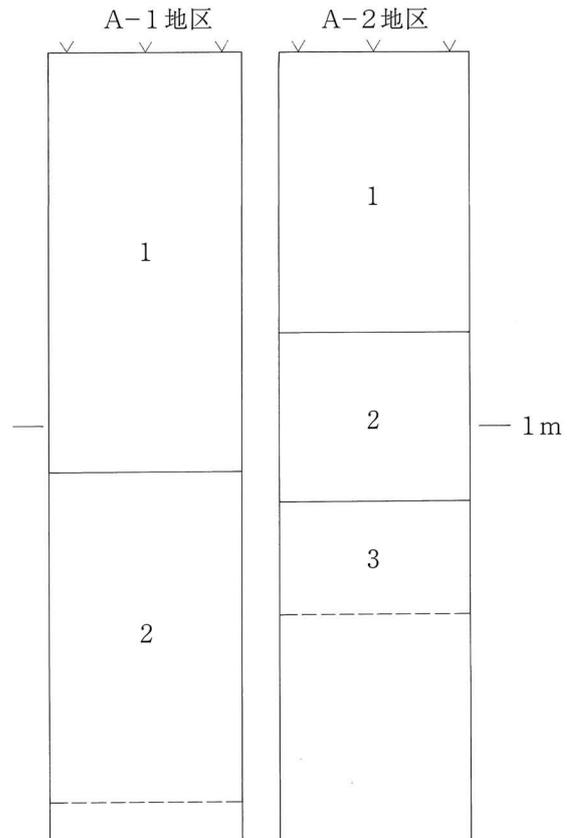
A 地区調査地遠景



A-1 地区土層断面



A-2 地区土層断面



第2図 土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-1 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗オリーブ灰色 (2.5GY3/1) 粗粒砂混じり粘質土。

A-2 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘質シルト。

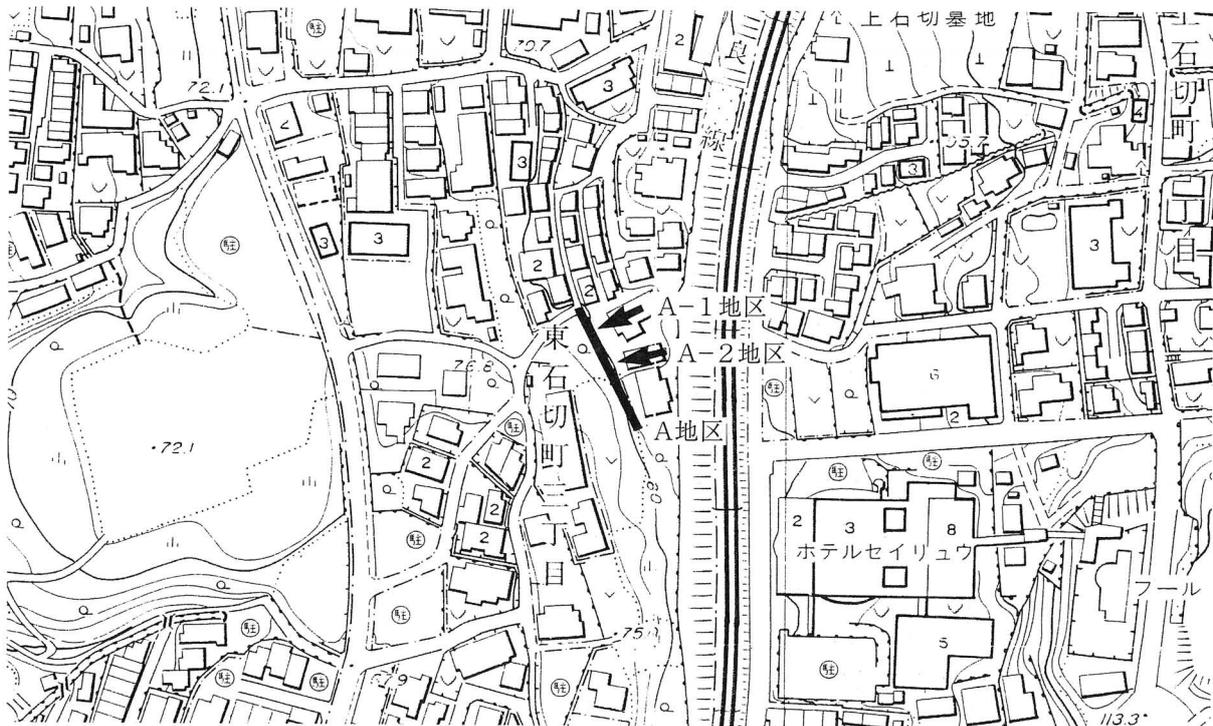
第3層 暗灰色 (N3/0) 砂混じり粘質土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第16章 こうなみ 神並古墳群の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成18年度公共下水道管きょ築造工事（6-6）
2	調 査 地 点	東大阪市東石切町3丁目1180-1～1183番地
3	調 査 面 積	17㎡
4	調 査 期 間	平成19年8月21日～8月27日（延べ5日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は東石切公園の東である。当地点は神並古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ20mの間であり、開削工法である。



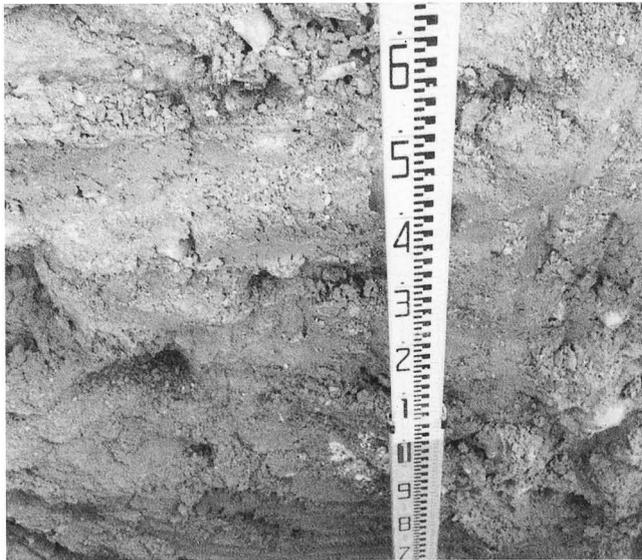
第1図 調査地点位置図 (1/2500)



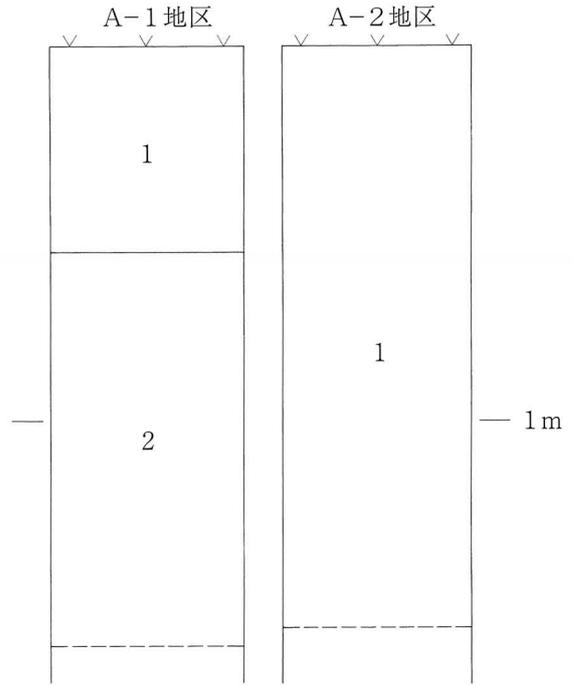
A 地区調査地遠景



A-1 地区土層断面



A-2 地区土層断面



第2図 土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-1 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 におい黄褐色 (10YR4/3) 粗粒砂混じりシルト。

A-2 地区の層序

第1層 盛土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第17章 こうなみ 神並古墳群の調査

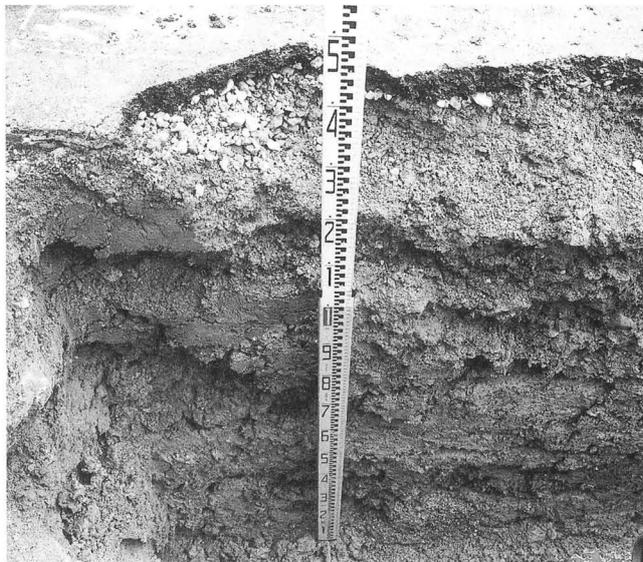
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成18年度公共下水道管きょ築造工事（8-6）
2	調 査 地 点	東大阪市東石切町3丁目1064-3～1065-1番地
3	調 査 面 積	41㎡
4	調 査 期 間	平成19年9月18日～9月28日（延べ5日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線石切駅の南西である。当地点は神並古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ41mの間であり、開削工法である。



第1図 調査地点位置図（1/2500）



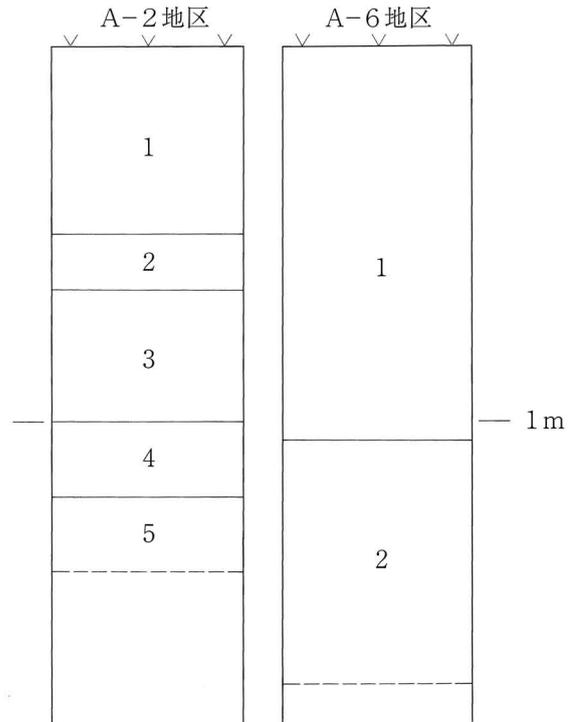
A 地区調査地遠景



A-2 地区土層断面



A-6 地区土層断面



第2図 土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-2 地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ色 (5Y5/4) 細礫混じり粘土。
- 第3層 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粗粒砂混じり粘土。
- 第4層 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘土。
- 第5層 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘土混じり粗粒砂。

A-6 地区の層序

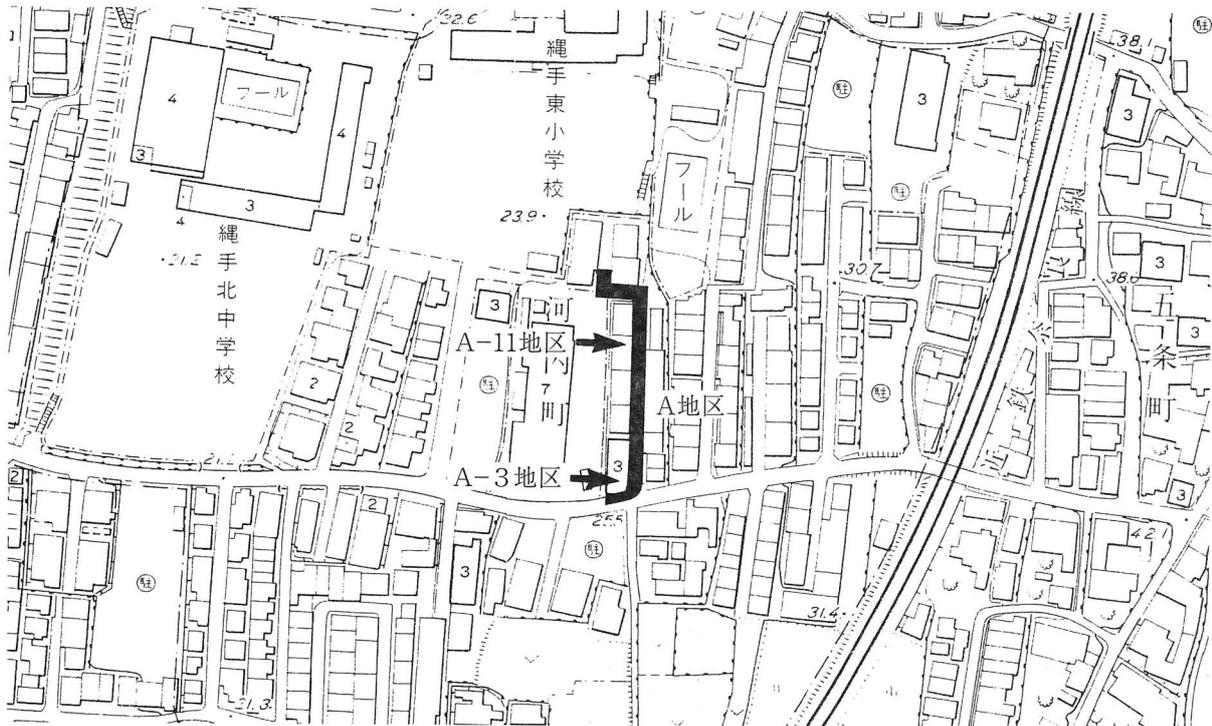
- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細粒砂混じりシルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第18章 さらいけ 皿池遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成18年度公共下水道第205工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市河内町340-1~362-3番地
3	調 査 面 積	132㎡
4	調 査 期 間	平成19年9月10日~10月10日 (延べ18日)
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手東小学校の南である。当地点は皿池遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8~0.9mで長さ155mの間であり、開削工法である。



第1図 調査地点位置図 (1/2500)



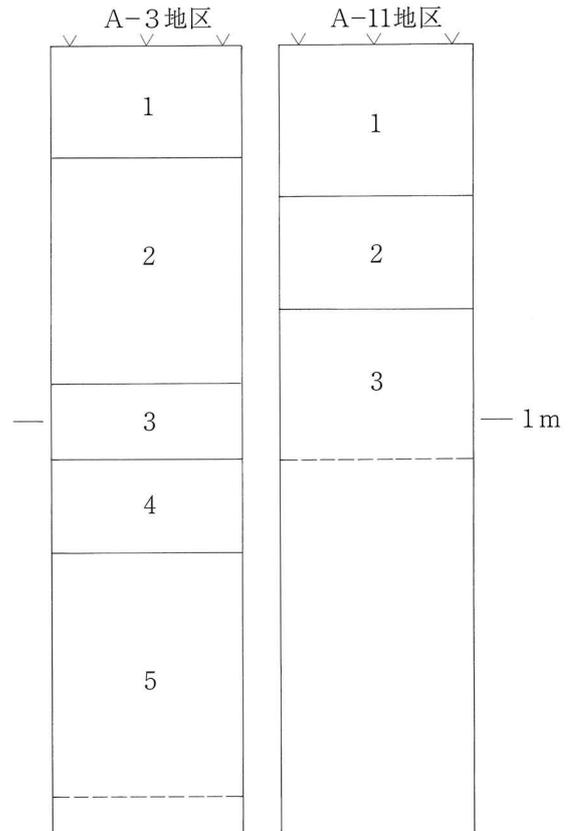
A 地区調査地遠景



A-3 地区土層断面



A-11 地区土層断面



第2図 土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-3 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色 (2.5Y3/2) 細粒砂混じり粘質シルト。

第3層 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘質シルト。

第4層 黒褐色 (2.5Y3/1) シルト混じり粘質土。

第5層 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質シルト。

A-11 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗灰色 (N3/0) 粗粒砂混じりシルト。

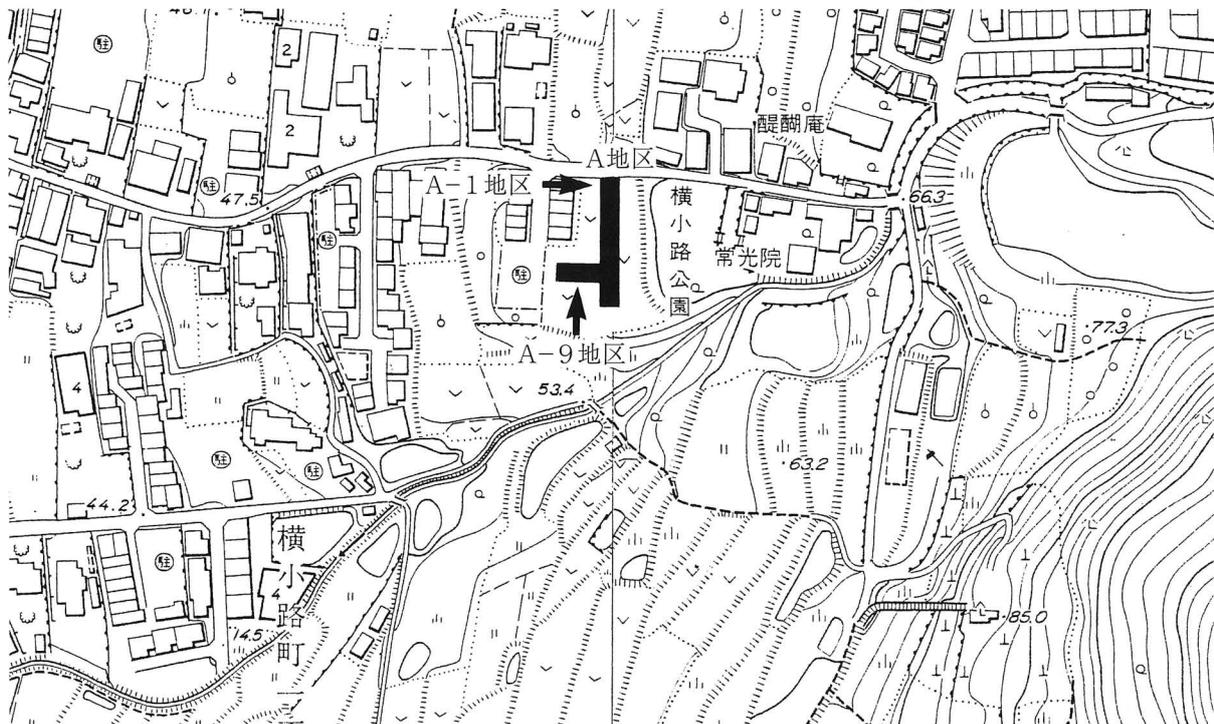
第3層 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第19章 じょうどじだに 浄土寺谷古墳群の調査

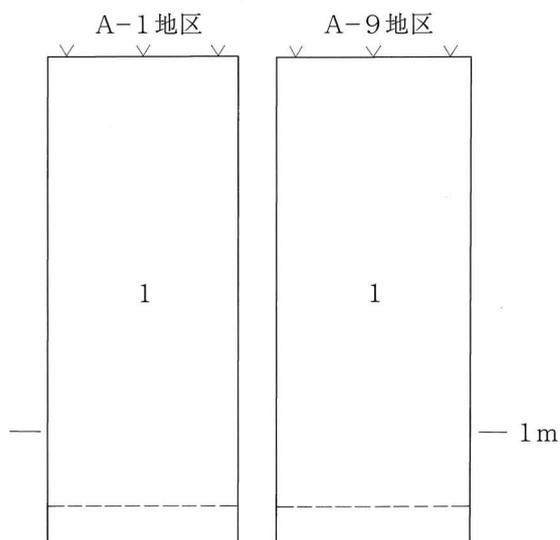
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成18年度公共下水道第21工区管きょ築造工事（2）
2	調 査 地 点	東大阪市横小路町1丁目595-1番地
3	調 査 面 積	56㎡
4	調 査 期 間	平成19年10月9日～10月24日（延べ10日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は横小路公園の西である。当地点は浄土寺谷古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ56mの間であり、開削工法である。



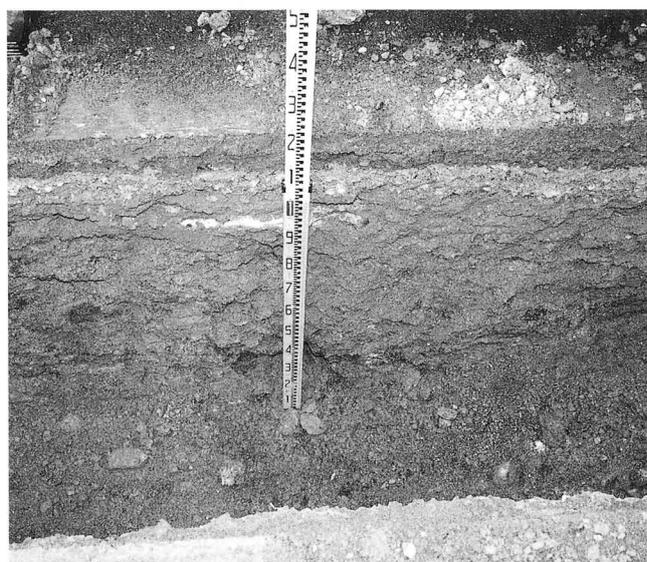
第1図 調査地点位置図（1/2500）



A 地区調査地遠景



第2図 土層断面柱状図



A-1 地区土層断面



A-9 地区土層断面

1. 調査の概要

A-1 地区の層序

第1層 盛土。

A-9 地区の層序

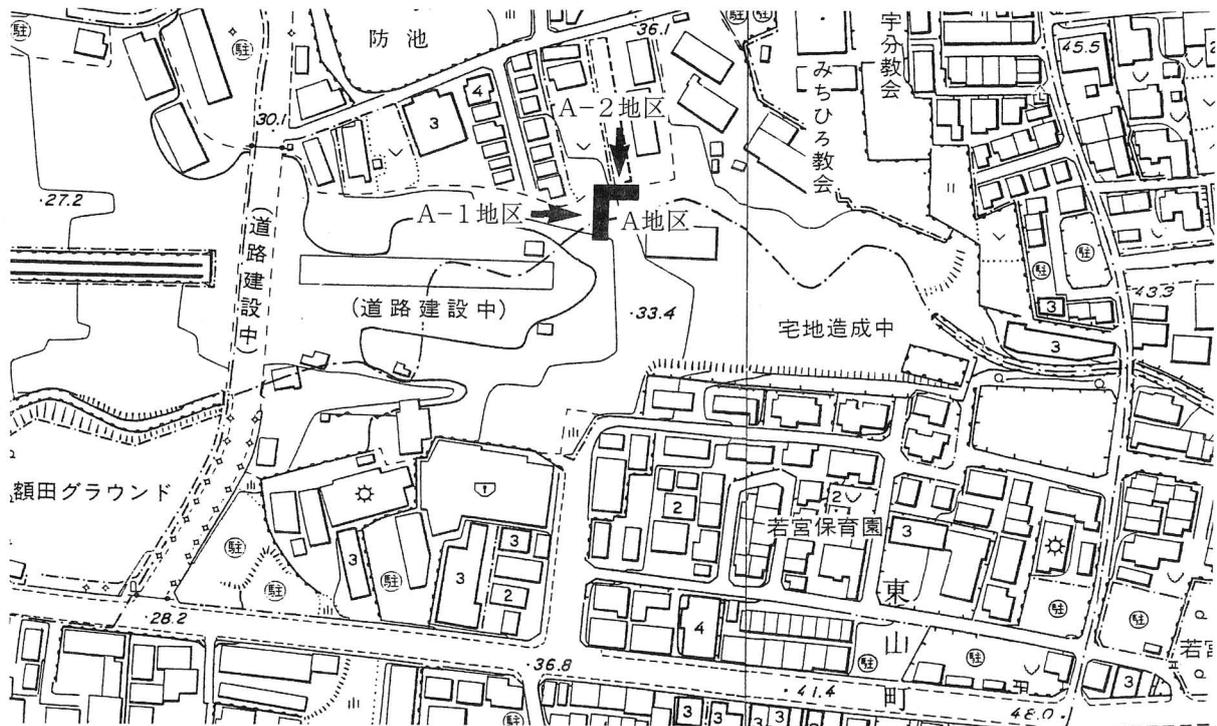
第1層 盛土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第20章 こうなみ 神並遺跡の調査

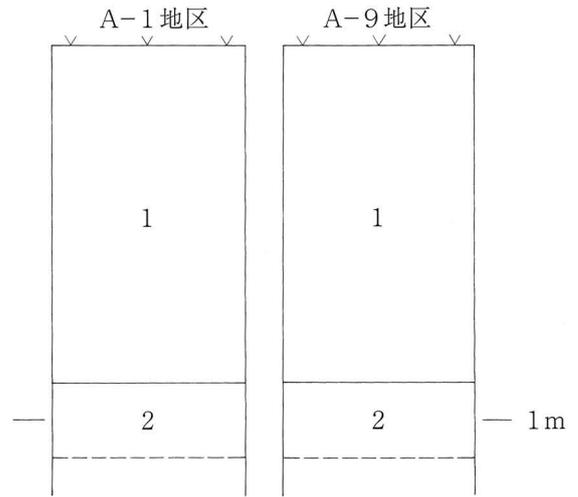
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成19年度公共下水道管きよ築造工事（東石切町1丁目地区）
2	調 査 地 点	東大阪市東石切町817-2～818-1番地
3	調 査 面 積	13㎡
4	調 査 期 間	平成19年11月26日～11月28日（延べ3日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は市営若宮住宅の北である。当地点は神並遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.8～0.9mで長さ15mの間であり、開削工法である。



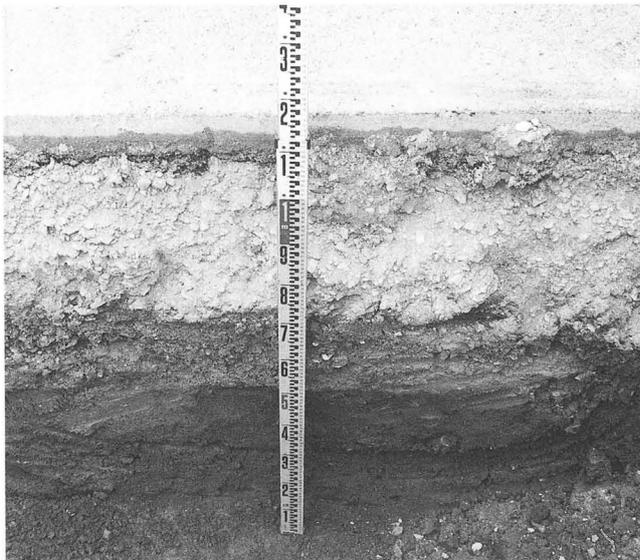
第1図 調査地点位置図 (1/2500)



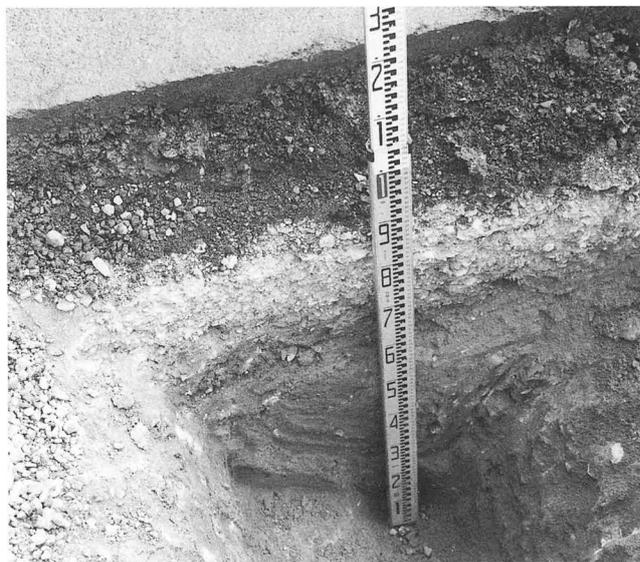
A 地区調査地遠景



第2図 土層断面柱状図



A-1 地区土層断面



A-2 地区土層断面

1. 調査の概要

A-1 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 粗粒砂混じりシルト。

A-2 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色 (2.5Y3/2) 粗粒砂混じりシルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

附編 四条町出土の遺物

村上 昇

1. はじめに

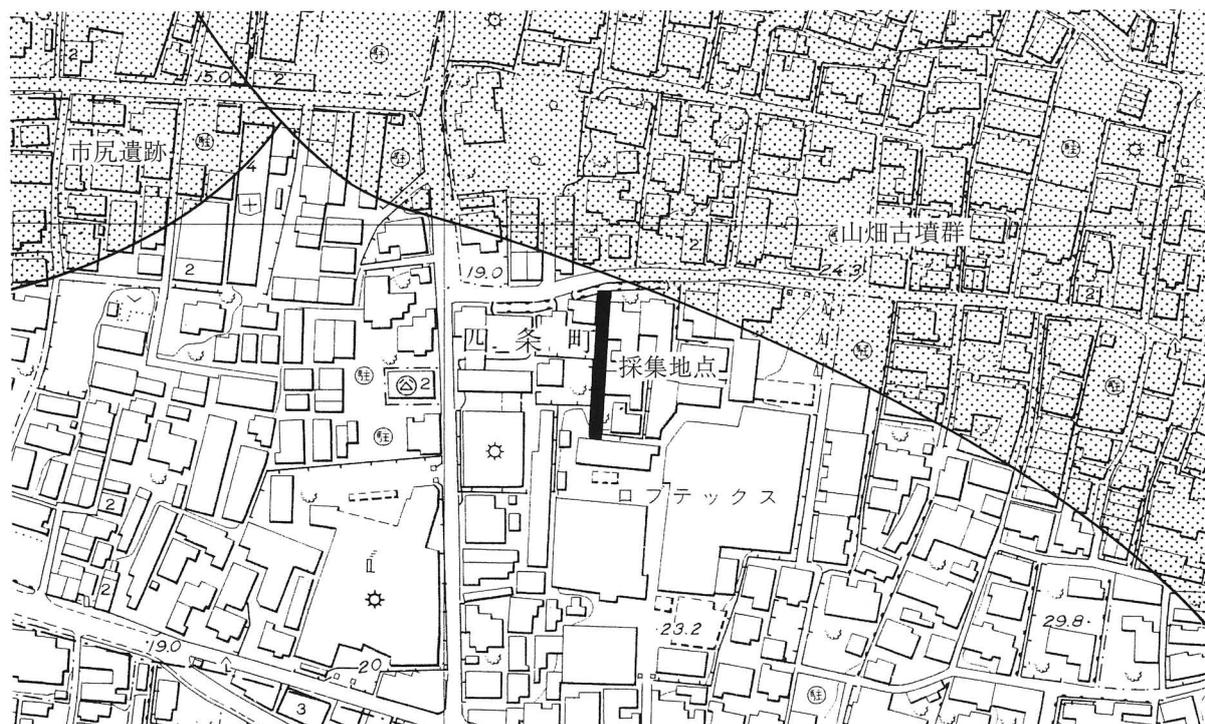
本資料は、四条町527～528番地で行われた排水設備全額補助工事に伴い発見され、工事を請け負ったサンエス建設株式会社のご好意によって文化財課に届けられたものである。工事現場は、山畑古墳群の南西に隣接している(第1図)。サンエス建設株式会社の工事関係者によると、これらの遺物は現地表下約1.5mの黒色粘土層から出土したという。詳しい出土状況は不明ながらも、遺物の時期は11世紀後半～12世紀初頭とまとまりが良いことから、一括性が比較的高い資料であると評価できる。

2. 出土遺物

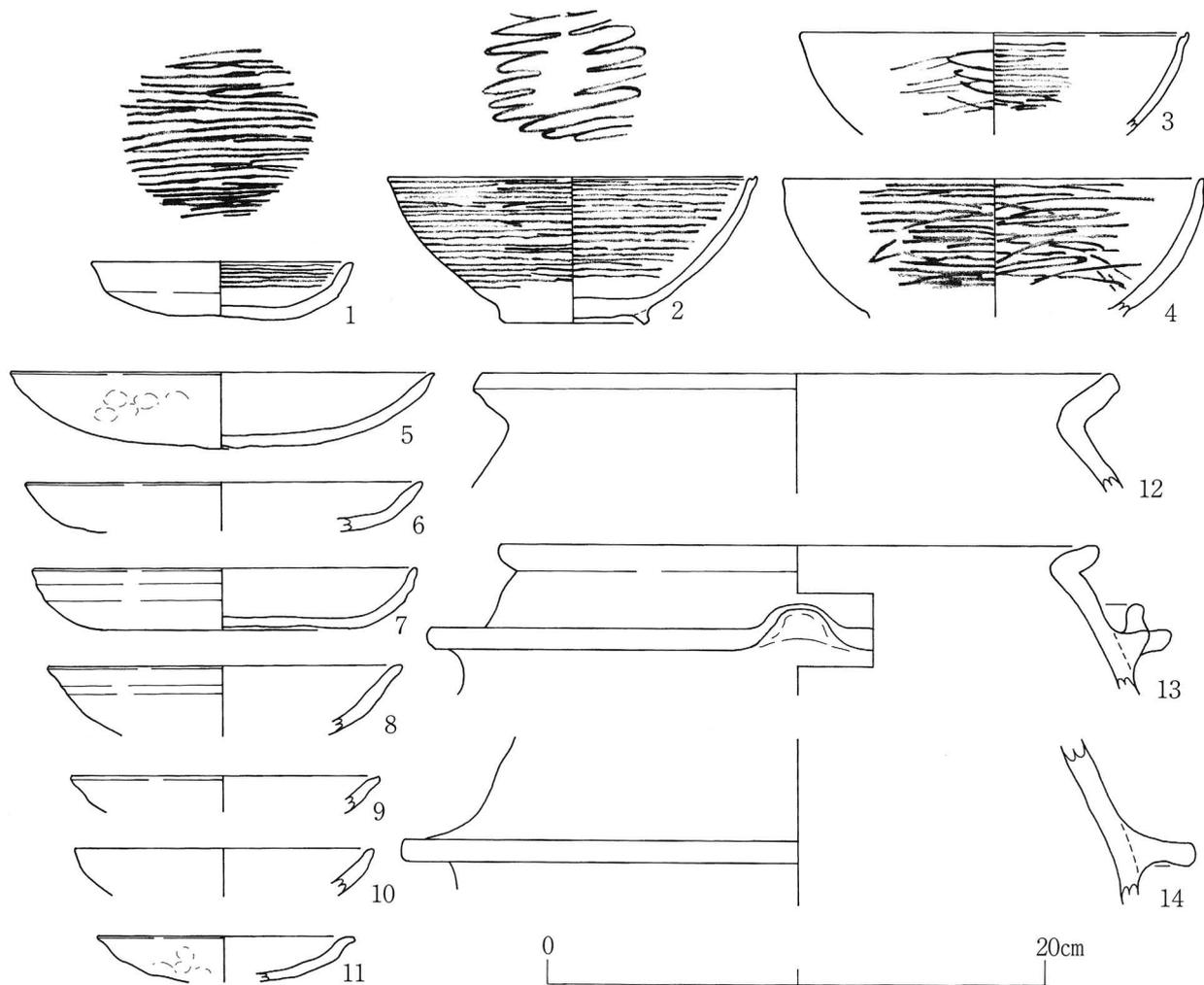
図化できた出土遺物について解説を加える(第2図)。以下、口縁部のヨコナデ調整と焼成が良好である場合は説明を省く。

1は瓦器の皿である。丸味を帯びた平底から、若干開き気味に体部が立ち上がる。口縁部は開き、口縁端部は丸く納める。内外面はナデ調整の後、口縁部の内面は分割した水平方向のヘラミガキ調整をする。見込み部は同一方向の平行する暗文を密に施す。灰色(N6/0)を呈し、胎土に石英を若干含む。11世紀後半～12世紀初頭のものと考えられる。

2～4は瓦器の椀である。2・3は体部が丸味を帯び、口縁部はやや上向きに立ち上がる。口縁端部はやや外反し、内面に沈線が巡る。2は平たい丸底を呈し、底部に短い高台を貼り付ける。体部内面の分割した水平方向のヘラミガキ調整は、2が密で、3がやや粗い。2は見込み部にジグザグ状の暗文を施す。2・3共に灰色(N4/0・N5/0)を呈し、胎土に長石を含む。大和型の椀である。2が11世紀後半、3が11世紀末～12世紀前半のものと考えられる。4は体部が丸味を帯び、口縁部が直立する。口縁端部は尖り気味である。器壁が4～5mmとやや厚い。外面はヘラケズリ調整の後、分割した水平方向のヘラミガキ調整をする。内面は分割した水平方向のヘラミガキ調整をする。ヘラミガキ調



第1図 採集地点位置図 (1/2500)



第2図 採集遺物実測図

整は、内外面共に密である。暗灰色 (N3/0) を呈し、胎土に長石を含む。和泉型の椀である。11世紀後半のものと考えられる。

5～11は土師器の皿である。5・6は丸底に近い平底を呈する。体部は丸味を帯び、口縁部は斜め上方へ立ち上がる。口縁部を除く外面は、成形時の指頭圧痕が残る。内面は丁寧にナデ調整する。灰白色 (10YR8/2) を呈し、胎土に長石・雲母を含む。7・8は口縁部を2段にヨコナデ調整する。7は平底を呈し、体部の立ち上がり部分が丸身を帯びる。口縁部はやや上向きに立ち上がる。口縁端部はやや外反し、丸く納める。口縁部を除く外面は、成形時の指頭圧痕が残る。内面は丁寧にナデ調整する。にぶい橙色 (7.5YR6/4) を呈し、胎土に石英・クサリ礫を含む。8は口縁部のみ残存する。口縁部は開き気味に立ち上がる。口縁端部は尖る。内面は丁寧にナデ調整する。にぶい黄橙色 (10YR7/3) を呈し、胎土に雲母・クサリ礫を含む。7・8は、口縁部を2段にヨコナデ調整することから、小森俊寛・上村憲章による皿Nに該当すると考えられる (小森・上村1996)。9は口縁部のみ残存する。口縁部は開き気味に立ち上がる。口縁端部は尖り気味である。にぶい黄橙色 (10YR7/3) を呈し、胎土に長石を含む。10は口縁部のみ残存する。口縁部は斜め上方へ立ち上がる。口縁端部はやや上向きになり、丸く納める。にぶい橙色 (7.5YR7/3) を呈し、胎土に石英・長石を含む。11は平底に近い丸底を呈する。体部は丸みを帯び、口縁部は斜め上方へ立ち上がる。口縁端部は外反し、やや尖り気味であ

る。にぶい黄橙色(10YR7/2)を呈し、胎土に長石・雲母を含む。

12は土師器の甕である。頸部は「く」の字状に屈曲し、頸部外面は横方向に粗く指ナデ調整する。口縁部は斜め上方向へ立ち上がる。口縁端部は面取りする。全体的に器面が摩滅しており、詳しい調整は不明である。橙色(5YR6/6)を呈し、胎土に石英・長石を含む。

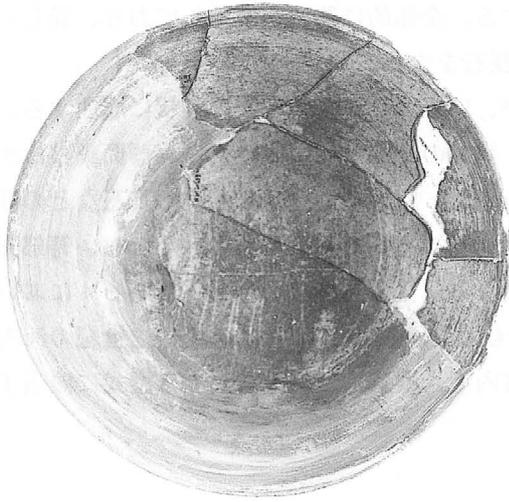
13・14は土師器の羽釜である。13は体部に丸みを帯び、口縁部が短く「く」の字状に屈曲する。口縁端部は丸く納める。鋳部は短く、先端を丸く納める。鋳部の一部を意図的に折る。器面調整はナデ調整し、特に体部内面は丁寧である。橙色(5YR6/6)を呈し、胎土に径1～2mm程の長石などの砂礫を多く含む。14は口縁部を欠くが、基本的な器形は13と同じであると考えられる。ただし、鋳部先端を軽く面取りし、弱いながらも外傾する面を持つ点が異なる。器面調整はナデ調整である。にぶい橙色(7.5YR7/4)を呈し、胎土に径2mm程の長石を多く含む。13・14は、11世紀後半～12世紀の河内産の羽釜である。器形の特徴から、13が森島康雄による河内型A型式に、14が同じくB型式に該当すると考えられる(森島1990)。

3. おわりに

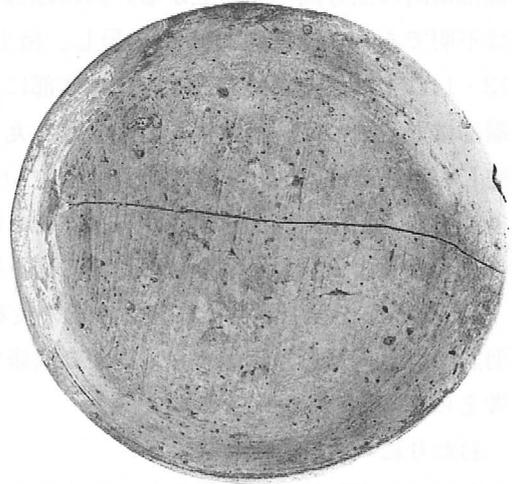
本資料は11世紀後半～12世紀初めの良好なまとまりのあるものである。隣接する山畑古墳群は、古墳時代後期(5世紀後葉～7世紀初頭)の群集墳であるが、これまでの調査でも、より新しい時期の遺物も出土している。第22次調査では平安時代前半を中心とした遺物が(横山2003)、山畑48号墳の発掘調査と第18・19・20・23次調査では中世の土師器の皿や瓦器の椀などが(東大阪市遺跡保護調査会1974、下村2001、若松・榎原2001・2002、菅原・釜田2004)、それぞれ出土している。第17次調査では、河川跡が12～13世紀の遺物を伴って検出されたと報告されている(金村1997)。以上から、これまで指摘されてきたように、山畑古墳群の遺跡範囲内に平安時代以降の集落跡が存在する可能性は極めて高い(金村1997)。今回の発見により、遺跡の範囲はさらに南西に広がると考えられる。

参考文献

- 金村浩一1997「第3章 山畑古墳群第17次発掘調査報告」『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告－1995年度－』財団法人東大阪市文化財協会
- 小森俊寛・上村憲章1996「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』3 京都市埋蔵文化財研究所
- 下村晴文2001「第2章 山畑古墳群第18次発掘調査」『東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報－平成12年度－』東大阪市教育委員会
- 菅原章太・釜田友理絵2004「第2章 山畑遺跡第23次発掘調査」『東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報』東大阪市教育委員会
- 東大阪市遺跡保護調査会1974『上四条小学校内山畑48号墳展示会資料』
- 森島康雄1990「中河内の羽釜」『中近世土器の基礎研究』IV 日本中世土器研究会編
- 横山佐夜子2003「第3章 山畑古墳群第21・22次発掘調査」『東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報－平成14年度－』東大阪市教育委員会
- 若松博恵・榎原美智子2001「第6章 山畑古墳群第19次発掘調査」『東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報－平成12年度－』東大阪市教育委員会
- 若松博恵・榎原美智子2002「第3章 山畑古墳群第20次発掘調査」『東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報－平成13年度－』東大阪市教育委員会



2'



1'



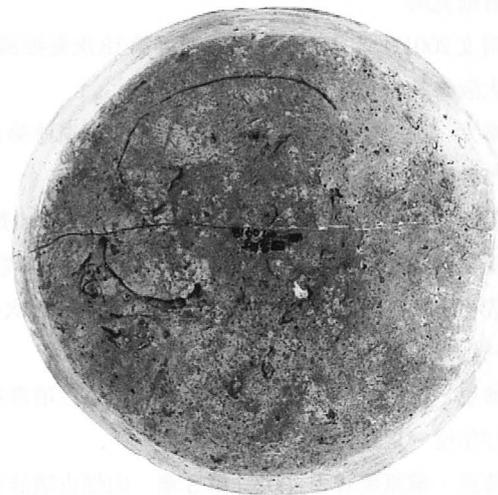
2



1

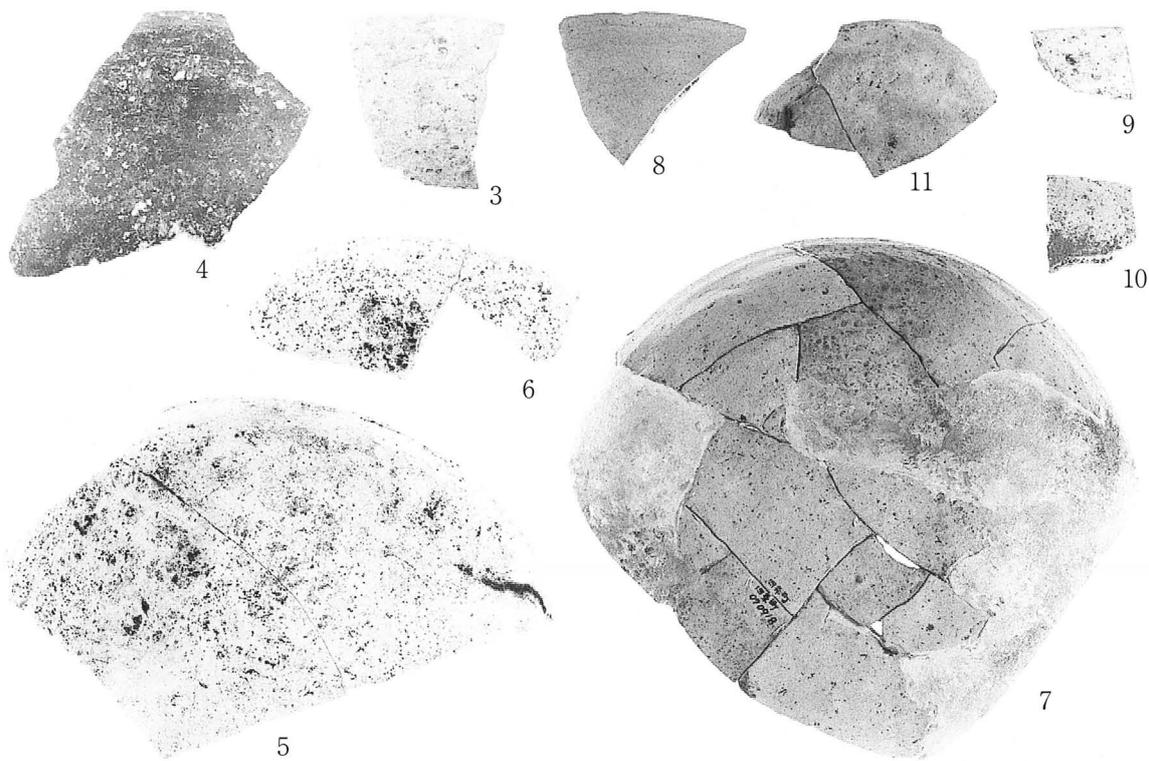


2''

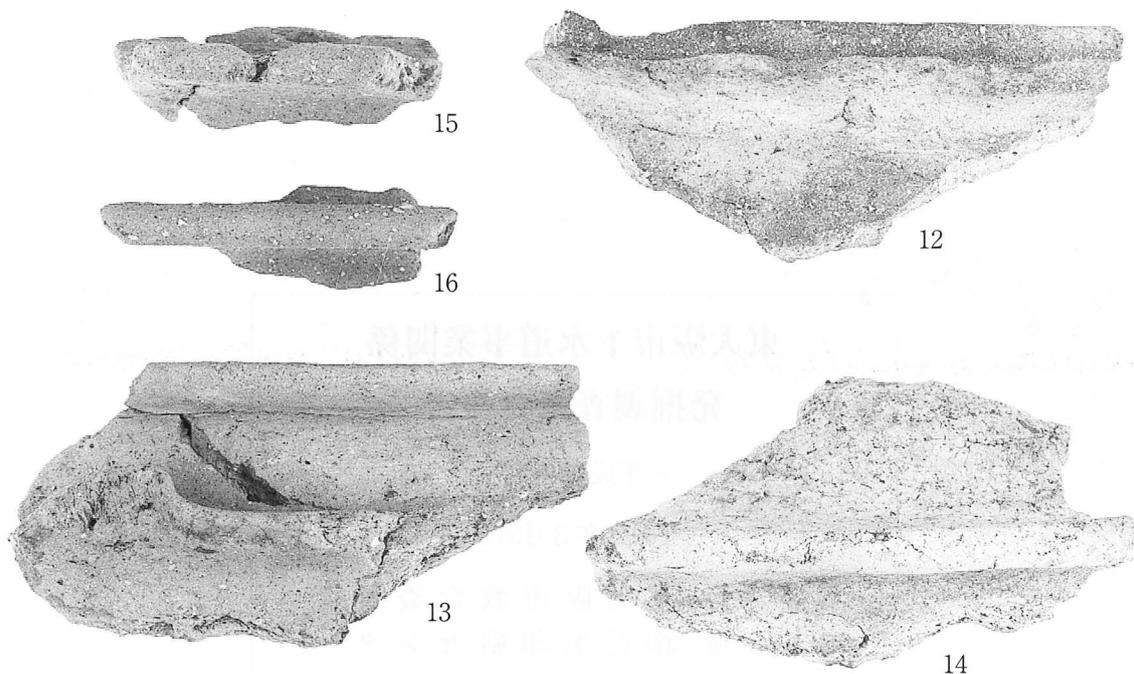


1''

採集遺物（瓦器）



採集遺物（瓦器・土師器）



採集遺物（土師器）

**東大阪市下水道事業関係
発掘調査概要報告**

－平成19年度－

平成20年3月31日

編集・発行 東大阪市教育委員会
印刷所 (株)近畿印刷センター

